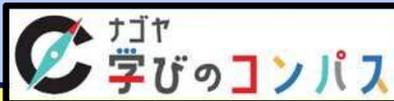


なごやの学校

2025

名古屋市教育委員会



「学びのコンパス」は、名古屋市の全ての子どもが学びを通して自分らしく、幸せに生きていくことができるよう、名古屋市の学びの基本的な考えを示したものです。

自律して学び続ける子どもの育成を目指し、「子ども中心の学び」を幼児期から青年期まで一貫して大切にしていきます。

名古屋市の学校園では、「ナゴヤ学びのコンパス」を基に、全ての教職員が対話を重ねながら、それぞれの学校園や子どもたちの実態に合った教育について考え、実践を進めています。

***** も く じ *****

ミライトラベルLAB

(中学生向けキャリア教育プログラム)

P. 4~7

中学校でのキャリア教育を充実させていくモデルとなるプログラムの開発のため、実社会の様々な仕事や活躍している人々、最先端の技術等、本物のヒト・コト・モノとの“であい”を通じて社会や仕事を自分事として捉え、「好き」や「できる」を大切にしながら自分らしい生き方を実現する力を育む事業です。 → 宮中学校・藤森中学校

NAGOYA School Innovation

つながるプロジェクト・かいぜんプロジェクト

P. 8~13

<つながるプロジェクト>

共通した教育目標や教育課題などに対し、複数の学校園の連携による学び合いを図りながら主体的に教育を展開するチーム実践に対して支援する事業です。

→ 明治小学校チームはじめ 5チーム

<かいぜんプロジェクト>

学校の当たり前を見つめ直し、子どもにとっても大人にとっても幸せな学校づくりを進める事業です。

→ 広路小学校・高針台中学校

特色ある幼児教育

P. 14~17

幼児の心に響く、豊かな体験を大切にした特色ある幼稚園教育を通して、幼児の健やかな成長を促しています。

→ 大幸幼稚園・高田幼稚園

SDGs 達成の担い手づくり推進事業

P. 18~23

SDGs（持続可能な開発目標）と様々な社会の課題のつながりを知り、自らは目標達成にどのように貢献できるかを考えることができる幼児児童生徒を育成する事業です。

→ 桶狭間幼稚園はじめ 6校

夢と命の絆づくり推進事業

P. 24~38

幼・小・中・高・特別支援学校（園）の幼児児童生徒がお互いのつながりを大切にした主体的な活動を通じて、自己実現の喜びを味わい、友情を深め合ったり、豊かな心を育んだりすることをねらいとする事業です。

→ 東桜小学校はじめ 45校

学校（園）名	テーマ	ページ
ミライトラベルLAB（中学生向けキャリア教育プログラム）		
宮中	キャリア教育プログラム ～本物のヒト・モノ・コトとの出会いを通して、社会と自分との関わりを考える～	4～5
藤森中	キャリア教育プログラム ～職業を通して、自己を見つめよう～	6～7
NSI ナゴヤ・コンパス・プロジェクト つながるプロジェクト		
明治小 伝馬小 明豊中 道徳和光幼 みなみ保 ユタカ幼 明治保 道徳保	ゆるやかな協働性の構築を目指して ～幼・保・小・中の子どもの学びに伴走するために～	8
守山東中 苗代小 小幡小 守山特支	特・小・中連携	9
吉根中 吉根小 志段味西小	つながるプロジェクト 認め合い、自ら学び続ける子ども	10
神丘中 西山小 名東小 西山台幼 あいわ幼	自他を尊重し、未来に活躍できる子	11
工業高 長良中 篠原小	工業高校×長良中学校×篠原小学校 パスファインダー・プロジェクト 共に手を携えてキャリアについて学び・体験し、新たな未来を切り開こう	12
NSI ナゴヤ・コンパス・プロジェクト かいぜんプロジェクト		
広路小	心と学びに やさしい選択を	13
高針台中	教職員も含めて「誰一人取り残すことのない学校づくり」	13
特色ある幼児教育		
大幸幼	生き物との触れ合いの中で“わくわく”を見つける ～直接体験を通して～	14～15
高田幼	心を動かして意欲的に遊ぶ幼児の育成 ～一人一人の思いや育ちを捉えた環境構成を考える～	16～17
SDGs達成の担い手づくり推進事業		
桶狭間幼	心身ともにすこやかで人間性豊かな子どもの育成	18
千石小	「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ	19
中川小	地球の問題はわたしたちの問題	20
小幡北小	よりよい社会の実現のために、“今、自分にできること”を考えよう	21
桜台高	みんなで「防災」・「減災」しよう at 桜台	22
名東高	SDGsをテーマとしたフィールドワークとプレゼンテーションの実践	23

夢と命の絆づくり推進事業（重点コース）				
東桜小	ウェルビーイングを実現する東桜っ子！！ ～「言葉の力」プロジェクトを通して～			24
野田小	I L O V E 野田			25
小坂小	学校まるっと居場所プロジェクト ～子どもがつくる『ほっとスポット』～			26
東星中	一人一人の思いに寄り添い、自分色に輝く生徒が育つ東星に ～Tosei HEART Planの具現化を目指して～			27
当知中	出合いを力に ～想いを広げる手～			28
夢と命の絆づくり推進事業（一般コース）				
第三幼 29	星ヶ丘小 29	上名古屋小 29	南押切小 29	
比良小 30	ほのか小 30	松原小 30	大須小 30	
村雲小 31	高田小 31	井戸田小 31	旗屋小 31	
千年小 32	露橋小 32	愛知小 32	八熊小 32	
正色小 33	西中島小 33	高木小 33	成章小 33	
西福田小 34	呼続小 34	廿軒家小 34	白沢小 34	
本地丘小 35	猪高小 35	香流小 35	野並小 35	
山根小 36	菊井中 36	前津中 36	白山中 36	
津賀田中 37	日比野中 37	大江中 37	明豊中 37	
千鳥丘中 38	猪子石中 38	久方中 38	菊里高 38	

ミライトラベルLAB

(中学生向けキャリア教育プログラム)



キャリア教育プログラム

～ 本物のヒト・モノ・コトとの出会いを通して、社会と自分との関わりを考える ～

名古屋市立宮中学校 校長 阿部 克彦

〒456-0035

名古屋市熱田区白鳥一丁目3番46号

TEL:052-681-7531 FAX:052-681-6490

URL:<https://nagoya.fureai-cloud.jp/miya-j>



事業のねらい

本校では、1年生での「自分を理解し、他者との違いを受け入れる」学びを基盤とし、2年生で「本物のヒト・モノ・コト」との出会いを通して、社会との関わりを考えるキャリア教育を実施しています。具体的には、様々な職業体験を通して、将来、自分が地域社会を支える大切な存在であると気付くことを目標としています。また、学んだ内容を企業に向けて企画提案し、講評を受けることで、実社会で役立つスキルを身に付ける機会を設けました。社会の一員としての自覚を深め、将来の選択肢や可能性を広げることをねらいとしています。

事業の内容

※ 4分野のプログラムの中から3分野のプログラムを体験できるように構成し、生徒自身が興味のあるプログラムを選択しました。

【日本文化と日本のモノづくり(株式会社岩田三宝製作所)】

日本の伝統技術の歴史や文化、加工技術について学び、職人の技術や工夫に直接触れるなかで、伝統技術の背景や製作工程を見学し、日本のモノづくりのすばらしさを学びました。その後、「アジア競技大会・アジアパラ競技大会の応援グッズを作ろう」というテーマで、日本の伝統技術を用いた応援グッズを製作しました。



【応援グッズの製作】

【ドローンがもたらす20年後の空の未来(株式会社ROBOZ)】

ドローンの市場動向や活用方法について学び、将来の産業や生活におけるドローンの可能性を考えました。小型ドローンの操縦体験や産業用ドローンのデモフライトの見学、プログラミングによるドローンの自動操縦体験により、実際の操作技術や安全管理、技術の仕組みや応用について学びました。



【ドローンの操縦体験】

【笑顔の未来をつくるきみだけのピース(イオンディライトセキュリティ株式会社)】

企業理念やユニバーサルマナーについて学びました。また、社会における多様性への配慮や、サービス業に求められる心構えの重要性を考えました。学んだ内容を生かして「おもてなしイベント企画」に挑戦し、グループでアイデアを出し合いながら企画をまとめました。



【アイデアを記入するプリント】

【循環型の社会から未来を考えよう(株式会社アビゾ)】

循環型社会の現状と課題について学び、資源の再利用が社会に与える影響力の大きさについて理解しました。その後、自動車を実際に解体し、素材ごとに分別する作業を体験しました。この過程で、金属やプラスチックなどの資源がどのように再利用されるかを学びました。リサイクルを取り巻く社会の変化を理解し、身近なものの解体を通して資源について考えることができました。

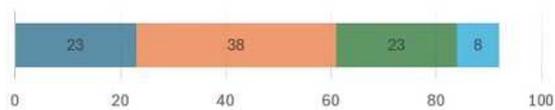


【解体した自動車】

事業の成果

事前アンケートでは、「将来について考えていますか」の問いに約60%の生徒が「はい」「どちらかといえばはい」と回答しました。事後アンケートの「このプログラムを通して将来について考えるきっかけになりましたか」の問いには、80%近くの生徒が「はい」「どちらかといえばはい」と回答しました。この結果から、今回行ったキャリア教育プログラムを通して「本物のヒト・モノ・コト」に触れたことが、社会の一員としての自覚を深め、将来の選択肢を広げたり、可能性に気付いたりするきっかけになったと考えます。

事前



事後



生徒の感想より

- ・プログラミングという言葉に興味があったが、企業の方の話聞いて、ドローンにプログラムを組んで動かすことに興味が広がった。
- ・将来、人と関わる仕事をするときに有効な接客方法を発見できた。

事業のまとめ

生徒の職業観を育み、将来の選択肢や可能性を広げる力を養いました。伝統技術の製作活動では、実際に目にした職人の工夫を基に応援グッズを製作し、モノづくりの楽しさや難しさを体験しました。ドローンの操縦やプログラミング体験を通して、テクノロジー分野の仕事に触れ、論理的思考力や問題解決力を身に付けました。さらに、企業理念やユニバーサルマナーについて知り、おもてなしイベントの企画に取り組むことで、企画力やコミュニケーション力を高めました。リサイクル学習では、自動車部品の解体と分別を通して、資源循環の仕組みや環境保全の重要性を理解しました。今後も、「本物のヒト・モノ・コト」との出会いを通して、生徒が自分の「好き」を増やし、「できる」を広げ、自信をもって実社会へ踏み出せるよう支援していきます。



キャリア教育プログラム

～ 職業を通して、自己を見つめよう ～



名古屋市立藤森中学校 校長 岩田 奈美
〒465-0047 名古屋市名東区小池町 66 番地
Tel:052-774-2861 Fax:052-776-4970
URL:<https://nagoya.fureai-cloud.jp/fujimori-j>

事業のねらい

本校では「ナゴヤ学びのコンパス」が重視する学びの姿のうち、特に「多様な人と学び合う」に重点を置き、学校努力点である「共に認め合い、つながり、豊かな学びのある学校づくり」に迫るために、様々な実践を行っています。

その一環として、2年生のキャリア学習では6分野のプログラムの中から3分野を選択し、体験活動やワークショップを通じて多様な職業や価値観に触れることで、「好き」を大切にしながら、将来の選択肢や可能性を広げられるようにしています。

自身の「好き」や楽しさを通じて、誰かのためにできることを考えた結果、自身が誰かの役に立つという「つながり」の実感を通して、課題の発見や解決を自分事として捉えることをねらいとしています。

事業の内容 1

◆ キャリア教育導入授業の実施

キャリア教育プログラムのねらいや何を行うかなどを生徒に伝え、学びの見通しや動機がもてるようにしました。

や価値観に触れることで、自分らしい生き方を考えるきっかけにしてほしいという教師の願いを伝えました。

◆ 各プログラムの想いと内容

1 「技術で拓く未来のみち ～社会を支えるエンジニアの力～」

【公益財団法人日本技術士会 中部本部理科支援小委員会】

<想い>

各分野の最先端の技術士の想いにふれ、キャリアや自分の将来について考えてほしい。理科好きの子を育てたい、エンジニアを育てたい。

<内容>

- ① 顕微鏡で微生物を観察する。汚れた水をきれいにする実験。
- ② 藤森中学区の街の地形と地層を3Dメガネで観察する。
- ③ ペットボトルで風力発電機づくり。



2 「3Dデータを作って、3Dプリンターで好きな形を作ってみよう」

【田内英樹事務所】

<想い>

世界で最も製造業が集積する中京地区で、今知っておくべき世界の製造業の常識に触れ、主体的に問題を解決する人を育てたい。

<内容>

タブレットで3Dデータの作成（実際に3Dプリンターへデータを投入し、造形する）。



事業の内容 2

3 「在宅がん患者さんとの対話を通じて、生き方について考えよう」

【医療法人かがやき総合在宅クリニック】

<想い>

日々患者さんの病気に向き合っている医師、看護師、患者さんにインタビューをしながら、生き方の選択について考える。

<内容>

在宅医療について学ぶだけでなく、実際に在宅医療を選択した患者さんと対話することで、生き方について考える。



4 「資源の循環から未来を考えよう」

【株式会社アビツ】

<想い>

大量に作られた物を、作った後に社会にどう戻していくかが重要。大量生産、大量消費、大量廃棄から地球を守るための循環社会について考えてほしい。

<内容>

小型家電、廃自動車を分解しながら、どのような資源に分かれるかを考える。最終的には、廃自動車をどうリサイクルしていくかを提案して、発表する活動を行う。



5 「まちづくりを通して社会に新たな価値を届けよう」

【株式会社レジスタ】

<想い>

「どうせならおもしろく」を合言葉に、藤が丘の未来を考えよう。

<内容>

- ① 藤が丘にこのような商店街があったらいい。
- ② 藤が丘にこのようなマルシェが開催されたらいい。
- ③ 藤が丘学区が、このような街になったらいい。



6 「美の力を学ぼう！プロの技にチャレンジ」

【一般社団法人 国際総合ビューティスト協会】

<想い>

自分の価値観の「美しさ」だけでなく、様々な選択肢があることを知り、自分の人生を豊かに生きてほしい。

<内容>

- ① 美容界の様々な仕事（薬剤師、ネイリスト、スタイリスト）の方にインタビュー。
- ② 自分に合うパーソナルカラーを知る&ヘアカットに挑戦。
- ③ プロのメイクを学び、メイクの実践体験をする。



事業の成果とまとめ

各プログラムでは、生徒が企業の方や教職員、仲間と学びあう姿や夢中になって取り組む姿が多くみられました。キャリア教育プログラムを通じて、「多様な人と学び合う」場面を設定し、働く人の想いや価値観に触れることができた成果だと考えます。

今後もこれらの成果を各教科・領域での学習に取り入れることで、学校努力点を踏まえたキャリア教育の推進に取り組んでいきたいと思っております。

ゆるやかな協働性の構築を目指して

～幼・保・小・中の子どもの学びに伴走するために～

名古屋市立明台小学校 校長 丸山 浩
〒457-0861 名古屋市南区明台2-3-50
TEL052-691-0888 FAX052-693-1432
<https://nagoya.fureai-cloud.jp/meiji-e>

名古屋市立伝馬小学校 校長 大野 弘嗣
〒457-0863 名古屋市南区豊二丁目38-9
TEL052-691-2305 FAX052-693-1480
<https://nagoya.fureai-cloud.jp/tenma-e>

名古屋市立明豊中学校 校長 梶田 勉
〒457-0863 名古屋市南区豊二丁目39-3
TEL052-692-1616 FAX052-693-1456
<https://nagoya.fureai-cloud.jp/meiho-j>

道徳和光幼稚園 園長 鎌田 隆光
〒457-0864 名古屋市南区道徳2-14
TEL052-691-6876 FAX052-691-6877
<https://wako-u.net/>

みなみほいくえん 園長 水野 香子
〒457-0865 名古屋市南区氷室町2-6
TEL052-691-0373 FAX052-691-1373
<https://minamihoiku.jp/>

ユタカ幼稚園 園長 加藤 博文
〒457-0862 名古屋市南区内田橋二丁目30-8
TEL052-691-6721 FAX052-691-6739
<https://www.yutaka-y.jp/>

明台保育園 園長 浦田 陽子
〒457-0863 名古屋市南区豊1丁目24-3
TEL052-691-9743 FAX052-691-2226
<https://meiiohoiku.com/>

道徳保育園 園長 横井 めぐみ
〒457-0845 名古屋市南区観音町6丁目20
TEL052-692-4001 FAX052-692-2030
<https://doutoku.jp/>

事業のねらい

地域の子どもたちが地域の幼・保・小・中で育つために教育関係施設の「ゆるやかな協働性」を目指して、幼保小の架け橋プログラムを中心に、様々な取り組みを行う。また、地域の子育て支援のコーディネート役の一端を担うことができるようにする。



【ラボ1での交流会様子】

事業の内容

授業公開 初任研示範授業や努力点研究授業などを幼・保・小・中の先生方に途中入退室 OK の形で自由に参観していただいています。指導案は簡単なメモのみです。参観者にアンケートを書きいただくことで、貴重なフィードバックを得ることができました。



幼保小連絡会 年1回を2回に増やすとともに、子どもたちの情報交換だけでなく、それぞれの園や学校が今取り組んでいることや困っていることなどについて、ミーティングボードを活用して共有することができました。会を重ねるごとに内容が濃くなっています。



合同研修会 講師の先生方にお越しいただき、研修を受けるとともに、「子どもが自ら学ぶ学校」へ変容するためのヒントをいただくことができました。奈良女子大学附属小 阪本一英先生・西田 淳先生 鳴門教育大学 教授 佐々木 晃先生 A-sessions 代表 上井 靖先生

明治小の取り組み～ラボ1・2 幼稚園・保育園の遊戯室のような、子どもたちが伸び伸びと活動できる部屋をつくりました。『探究学習の根っこ』を育てることができました。見学者から「ぜひ他学年にも広げてほしい」という言葉をいただくことができました。



年長児・1年生の交流会 近隣の園だけでなく、明治小に入学予定の園児が在籍するすべての園に手紙を出し、交流会の参加を呼びかけました。事前に入学説明会で保護者に引率の協力を依頼しました。入学へ向けての安心感をさらに高めることができました。



【タブレットおね...】

そのほかにも... (一部)

- 園児の小学校行事への参加(学習発表会等)
- 幼児教育の活動参観(通常保育、行事「レゾジョ・エミリア;芸術士の取り組み」など)
- 保育者の小学校での授業計画(キャリア教育)
- 1年生の幼・保への訪問(秋のおもちゃ遊び)

【ラボ1の段ボール迷路】

事業の成果

近隣の幼・保・小・中が連携することで、子どもたちの情報を共有するだけではなく、参加学校園が、現在どのような取り組みに重点を置いているかなどを知ることができました。特にスタートカリキュラム(幼児教育で子どもたちが得た『遊びを通した学び』を小学校でどのように生かしていけばよいか)の充実を図ることができました。また小学校を中心として、参加学校園に情報提供を行うことで、幼稚園や保育園相互の連携を促進させることができました。

事業のまとめ

地域の教育関係機関が連携して、地域の子どもたちを見守るためには、学校園の敷居を低くした「ゆるやかな協働性」を構築し、普段からいろいろなことを話すことができる関係性を築くことが大切であると考えます。これはコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の構築の実現にも役立つと考えます。今後は名古屋市の「コンパスぷらん」の実現を図るために、さらに実践を積み重ねていきたいと考えています。

NAGOYA School Innovation
 ナゴヤ・コンパス・プロジェクト つながるプロジェクト



2025. 9. 18
 4校合同 対話集会



2024. 9. 26
 守山東中学校 参観



2025. 9. 17・18
 守山特別支援学校 参観

特・小・中連携

【ねらい】 先生方が学校の垣根を越えて学び合い、地域の子どもたちみんなの成長を支える取り組みを推進します。

【内容】 守山特別支援学校・小幡・苗代小学校の先生方は、令和6年度に守山東中学校の授業を参観して意見交換を行いました。令和7年度は、守山特別支援学校を訪問し、子どもの学びや成長の様子を見て、理解を深めました。学校の枠を越えて協力し合い、地域全体で子どもたちを育て、子どもの可能性を広げる学びの場が生まれています。

【成果とまとめ】 特別支援学校・小学校・中学校の先生たちが集まり、子どもたちの成長について話し合いました。それぞれの学校での子どもたちの学びや生活の様子を共有しながら、子どもたちが社会の中で自分らしく生きていくために、今どのような力を育てていくべきかを考える機会となりました。学校の枠を越えたつながりを深めることで地域全体で子どもたちの成長を支えていくことの大切さを改めて感じる事ができました。

校長も連携



上井靖先生による

※市内の校長歴任後、数々の御立場でご活躍

大規模対話
 ワールドカフェ



名古屋市立小幡小学校 校長 村松 和広
 〒463-0011 名古屋市守山区小幡一丁目3の4
 TEL (052) 793-2269 FAX (052) 795-2624
 URL <https://nagoya.fureai-cloud.jp/obata-e>

名古屋市立苗代小学校 校長 武田 裕行
 〒463-0046 名古屋市守山区苗代二丁目10番6号
 TEL (052) 793-9171 FAX (052) 795-2624
 URL <https://nagoya.fureai-cloud.jp/naeshiro-e>

名古屋市立守山特別支援学校 校長 妹尾 圭司
 〒463-0011 名古屋市守山区小幡一丁目14の6
 TEL (052) 794-5466 FAX (052) 795-2615
 URL <https://nagoya.fureai-cloud.jp/moriyama-sh>

名古屋市立守山東中学校 校長 相原 剛
 〒463-0011 名古屋市守山区小幡五丁目7番3号
 TEL (052) 791-6348 FAX (052) 795-2602
 URL <https://nagoya.fureai-cloud.jp/moriyama-e-j>

つながるプロジェクト 認め合い、自ら学び続ける子ども

名古屋市立吉根中学校 校長 丹羽 広重
〒463-0812 名古屋市守山区笹ヶ根2丁目102 TEL 052-736-0432
<https://nagoya.fureai-cloud.jp/kikko-j> FAX 052-736-0482

名古屋市立吉根小学校 校長 鶴飼 美由紀
〒463-0004 名古屋市守山区吉根1-1601 TEL 052-736-8590
<https://nagoya.fureai-cloud.jp/kikko-e> FAX 052-736-8593

名古屋市立志段味西小学校 校長 石原 清丈
〒463-0811 名古屋市守山区深沢2-177 TEL 052-736-9715
<https://nagoya.fureai-cloud.jp/shidami-w-e> FAX 052-736-0794

ねらい

三校がつながり、子どもが関わる日常活動、学び合いの授業(表現活動の充実)を追究し、「認め合い自ら学び続ける子ども」を目指します。

内容

○ つながる活動「はっぴーふれあいタイム」

週に一回 10分の少人数での短時間グループアプローチ。「今日は『どっちかな』、それとも『アドじゃん』？」元名城大学教授曾山和彦先生が提唱するSST(人付き合いのスキルトレーニング)に慣れ親しみ、関わる力を育てています。



「はっぴーふれあいタイム」

○ つながる先生・子ども

・ 先生の三校合同現職教育

曾山和彦先生の「スリンプル・プログラム」、深見太一先生の「クラス会議」、渡辺貴裕先生の「なってみる学び」…。児童、生徒の学び合いをテーマにした現職教育、研修会を定期的に設け学び合うことで、日々の実践に生かしています。三校の教職員が集い、語り合う光景は壮観です。

・ 子どもの文化的行事交流

「キッコザニア」と「作品展」。吉根小と志段味西小の6年生が、互いの文化的行事に相手校をご招待。慣れ親しんでいる少人数のグループでの交流は、吉根中での交流への期待感を高めます。



三校合同現職教育・研修会の様子

○ つながる環境整備

三校で共通する教具を購入し、学び合う環境を整えています。

・ 円形ホワイトボード

少人数でひざをつき合わせ、その上にホワイトボードをのせ、考えをかき出しながら話し合います。

・ スマートカメラ

居場所づくりの教室からタブレット端末を操作して、学級で行われている授業に参加します。



「円形ホワイトボード」を使って

成果とまとめ

コロナ禍の後、マスクを外せず発言を控えていた児童、生徒。三校が共通して実施した週に一回の「はっぴーふれあいタイム」の習慣は、互いを隔てていたものを着実に緩めました。授業でも、少人数での話し合い活動を設けたことで、発表への心理的ハードルが下がり、児童、生徒が自由に思いや考えを発する場面が増えました。その結果、学校生活アンケート「授業で友達と話し合うよさが分かる」で、9割の子どもたちから肯定的な回答を得るに至りました。

曾山和彦先生は「続ければ、文化になる」とおっしゃいました。三校合同現職教育で共有した考え方、共通して整えた環境によって、継続し、ともに目指す姿「認め合い、自ら学び続ける子ども」に迫ります。

自他を尊重し、未来に活躍できる子

名古屋市立神丘中学校 校長 本郷 文幸

〒465-0083

名古屋名東区神丘町1丁目18番地

TEL 052-701-1268

FAX 052-701-1270

<https://nagoya.fureai-cloud.jp/kamioka-j>

名古屋市立西山台幼稚園 園長 勝又 靖代

〒465-0094

名古屋名東区亀の井2-41

TEL 052-701-5286

FAX 052-701-5818

<https://nagoya.fureai-cloud.jp/nishiyamadai-k>

名古屋市立西山小学校 校長 竹中 剛志

〒465-0085

名古屋名東区西山本通2-35

TEL 052-701-5181

FAX 052-701-5206

<https://nagoya.fureai-cloud.jp/nishiyama-e>

あいわ幼稚園 園長 後藤 泰之

〒465-0082

名古屋名東区神里町168

TEL 052-701-4550

FAX 052-701-5644

<https://aiwayouchien.ed.jp/>

名古屋市立名東小学校 校長 小笠原 英雅

〒465-0094

名古屋名東区亀の井3-134

TEL 052-702-1166

FAX 052-702-1572

<https://nagoya.fureai-cloud.jp/meito-e>



事業の概要

「自他を尊重し、未来に活躍できる子」を目指したい子ども像として設定し、「つながる視点」「キャリア教育の視点」の2つの視点から実践に取り組んだ。

「つながる視点」の取組としては、各校園が学びをつなげる視点で連携を図った。「幼保一小」「小一中」だけでなく、学びをつなげ、そろえるために「幼保一幼保」、「小一小」でも連携を図った。また、「幼保一小」、「小一中」の接続期における問題解決を図るためのカリキュラムなどの開発や運用について検討した。

「キャリア教育の視点」の取組としては、中学校に配属されているキャリアナビゲーターを活用し、各学校でのキャリア教育の授業（キャリアタイム）を推進した。そして、教職員の現職教育の企画などにもキャリアナビゲーターを活用し、教職員のキャリア教育の理解を促進した。自尊感情・自己有用感・命の尊重などの学習には、専門的知見を生かすため、スクールカウンセラーとの連携も図った。

また、小中連携の視点で、キャリアパスポートの活用を進め、自己理解の促進や、学び・成長の履歴をつなげ、キャリアプランニングに活用した。さらに、未来への原動力となる子どもたちに夢や希望を抱いてもらえるような講演会を実施した。

「つながる視点」における取組

- 1 相互授業参観
- 2 相互理解ワークショップ
- 3 先進的な実践校・研究会等への視察
- 4 接続カリキュラムの開発運用
- 5 幼児・児童・生徒の相互交流



【児童・生徒の相互交流の様子】

「キャリア教育の視点」における取組

- 1 講演会
- 2 キャリアナビゲーターの活用・授業実践でのキャリアパスポートの活用
 - ① キャリアタイムの実施
 - ② キャリア教育にかかわる現職教育の実施
 - ③ 命の授業など、スクールカウンセラーとの連携
 - ④ 未来への原動力となる夢や希望にあふれる講演
 - ⑤ キャリアパスポート活用による自己理解の促進
 - ⑥ 自分の学び・成長の履歴
 - ⑦ キャリアプランニングへの活用



【キャリアナビゲーターによる現職教育の様子】

取組の成果

つながる視点のワークショップを行ったことで、自校の実態を客観的に把握することができた。また、大規模校のため、普段、校内で関わりの少ない教職員と話すことができた。

キャリア教育の視点での取組により、教職員・児童生徒ともに少しずつキャリア教育への意識の高まりが感じられるようになり、実践が進んできた。また、中学校だけでなく幼稚園、小学校でのキャリアナビゲーターの活用が進んだ。

工業高校×長良中学校×篠原小学校 パスファインダー・プロジェクト 共に手を携えてキャリアについて学び・体験し、新たな未来を切り開こう

<実践の狙い>

工業高校生が篠原小学校・長良中学校と連携し、実習で培った技術を生かして、地域のものづくりを体験で学ぶ機会をつくります。高校生は教える立場となることで相手の目線から伝える力を深め、共につくる喜びを知ります。小・中学生は、自らの学びが産業や仕事へどうつながるかに触れ、興味や芽を家庭や授業にも広げていくことを目指します。



<篠原小学校5年生の体験学習>

令和6・7年12月、篠原小5年生が工業高校を訪れ、機械・電子機械・自動車・電気・情報技術・環境技術科を順に見学し、各科の特色を生かしたものづくりに挑戦しました。実際の工具や機器に触れる中で、高校生が丁寧に作業を教える姿も相まって、学びと仕事がどのようにつながっていくのかを身近に感じる機会となりました。体験を通して、「もっと作ってみたい」「こういう機械を使ってみよう」といった声が多く聞かれ、将来の進路や4年後の自分の姿に思いをはせる児童も見られました。教室だけでは得られない実感を持った学びに触れ、小学生にとっても高校生にとっても互いの世界が広がる時間となりました。

<地域の施設でのものづくりイベント>

令和7年4月、工業高校の生徒が中心となり、篠原小学校をはじめとする地域の小学生を対象に、鑄造体験・万華鏡づくり・エジソン電球づくりの各ブースを企画・運営しました。企業連携では、アルプススチール株式会社と刻印体験を、株式会社近藤印刷と包装材を活用したアップサイクル缶バッジを共同で企画・運営しました。小学生は、ものづくりの楽しさが将来の仕事へつながる入口に触れ、高校生は企業の方の地元やものづくりを大切にする姿勢から学びを得ました。会場を中川運河沿いの施設「PALET.NU」としたことで、地域が一体となる雰囲気が醸成されました。



<同じ音楽を愛するものとして>

令和7年8月、「つながる夏の音楽祭」として、長良中学校吹奏楽部と名古屋市立工業高等学校ジャズバンド部が合同演奏会を開催しました。重層的なサウンドの高まりに、会場全体に温かな一体感が生まれました。

中学生は舞台上の高校生に近い未来の自分を重ね、音づくりや表現の工夫に目を向ける契機となりました。高校生もまた、聴衆を前に積み重ねた練習の意味を確かめ、次の挑戦へ踏み出す手応えを得ました。



<長良中学校での出前授業>

令和6年8月、長良中学校で出前授業を実施しました。1限目は環境技術科の高校生による科学実験ショー（空気砲、液体窒素の演示実験）で関心を喚起し、2限目は機械・電気・環境技術の体験ブースで、鑄造、エジソン電球、万華鏡・せっけんづくりに挑戦しました。高校生は説明と運営サポートを担い、理科の学びが工業高校の実習や地域のものづくりとつながるイメージを示しました。実施中は手順を確かめ合い、次工程へ自発的に進む様子が各ブースで見られました。

<長良中学校で用いるクラフトパンチの作成>

令和7年1月、長良中学校のこもれびルームで使用するクラフトパンチの作成依頼を受け、工業高校の共創プロジェクトチームが試作を重ねています。チームは科の枠を越えて集まった生徒で構成され、打ち合わせを通してサイズや安全性、使いやすさなどの条件を確認し、設計や素材を検討してきました。

作業を進める中で、高校生は製品の安全性や使いやすさといった視点を持ち、課題に応じて設計を見直すなど、主体的に改善を行う姿が見られました。令和7年度中の完成を目指し、現在は形状や操作性の最終調整に取り組んでいます。

名古屋市立篠原小学校

〒454-0834 名古屋市市中川区丸米町1の5 5
TEL 052-352-0258 FAX.052-352-9481
URL: <https://nagoya.fureai-cloud.jp/shinohara-e>

名古屋市立工業高等学校

〒454-0851 名古屋市市中川区北江町3-13
TEL 052-361-3116 FAX 052-352-9491
URL: <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/kogyo-th/>

名古屋市立長良中学校

〒454-0843 名古屋市市中川区大畑町1丁目3-1
TEL 052-351-8341 FAX 052-352-9042
URL : <https://nagoya.fureai-cloud.jp/nagara-j>

心と学びに やさしい選択を

名古屋市立広路小学校 校長 松藤耕造

〒466-0853 名古屋市昭和区川原通8丁目21番5号 Tel 052-761-9166 Fax052-761-8284

<https://nagoya.fureai-cloud.jp/hiroji-e>

本校では、「子どもも大人も生き生きと!!」した学校を目指して、「教職員の対話」と「環境整備」をポイントに、「心と学びにやさしい選択を」考え、取り組んできました。

① 働き方改革の継続的な推進

教科担任制の積極的な導入や共有ファイルでの会議時間の短縮、週間課程の見直し等を実施し、時間の確保に取り組みました。

② 教職員の対話による振り返り

業務のスリム化を目指し、「へらす」「なくす」「かえる」「充実させる」ことについて、職員間での対話を進めています。業務内容や行事、週間課程や職員室環境など、様々な改善点が生まれました。また、生成AIの活用を考え、研修を進めています。

③ 研修・自己啓発の時間の確保

月末の金曜日を午前中授業として、研修や自己啓発の時間としました。「ひろじいカフェ」と称した対話会も行われ、交流や相談の時間となっています。

④ 職員室の環境改善

「ひろじいカフェ」のような職員の対話が常時できるように、職員室の整理やレイアウトを工夫して、対話スペースの確保に取り組んでいます。



【業務改善を目指した対話会の様子】



【和やかなひろじいカフェの様子】

教職員も含めて「誰一人取り残すことのない学校づくり」

名古屋市立高針台中学校 校長 安武宏

〒465-0055 名古屋市名東区勢子坊三丁目801番地 Tel 052-703-5121 Fax 052-703-5172

<https://nagoya.fureai-cloud.jp/takabaridai-j>

本校では「誰一人取り残すことのない学校づくり」を学校経営方針に掲げ、教職員一丸となって様々な新しい取組を進めてきました。教職員の業務負担軽減は、子どもたちにより多く寄り添うために必要不可欠であると考え、生成AIの活用を中心とした業務改善に力を入れました。今年度は、校内でプロジェクトチームを立ち上げ、研修会に参加をし、さらに校内での学習会や情報共有の機会を設けて、全ての教職員が積極的に生成AIを活用する土壌を作りました。以下は、本年度の本校の活用事例です。今後は個々の取組だけでなく、より高度な学校全体での生成AIの活用を進めていきたいと思ひます。

【高針台中学校の活用事例】

文章・文書作成支援

- ・公文書や案内文書、アンケート要点整理など、各種文書の自動作成・編集
- ・イラスト、視覚資料生成。逆にイラストや資料を表化・言語化
- ・宛先に応じたメールの返信文面作成

授業・教材作成の効率化

- ・ワークシートや練習問題、技術指導資料など、教材や指導資料の作成支援
 - ・パフォーマンス課題とその評価基準の作成
 - ・授業展開や発問についてのアイデア出し
- その他校務・業務の自動化・効率化・支援

Excel や Forms や PowerPoint を活用したデータ処理支援

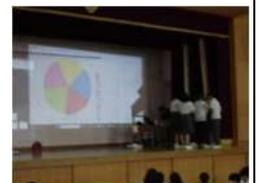
- （個人懇談会日程調整ツール、Excel 関数の修正補助、記録の自動プレゼン化）
- ・新しい学校行事について企画・資料作成、発表準備
- ・各種マニュアル、外部から持ち込まれた資料、名刺等を取り込み、分析・分類・整理補助

【具体①エージェント機能の活用】

Microsoft Copilot の中でもエージェント機能を数例活用しています。勤務条件や福利厚生制度に関する資料をアップロードした上で、職員が質問すると即座に回答する「教頭エージェント」を構築しました。「こういう事案で休みたい」と問えば、教頭エージェントが関連制度や必要な書類を答えてくれるといったものです。エージェント機能の活用で、迅速かつ正確に情報を得ることが可能となりました。他にも指導方針や学校のルール等をアップロードした生徒指導主事エージェント等も稼働しています。

【具体②WEB アプリケーションの作成】

スポフェス(体育大会)の団決めにおいて、生成AIを活用し、Web上で動作するルーレット機能を作成しました。視覚的に動きがあり、生徒の期待感を高める仕組みとなり、会場が盛り上がりました。従来の方法では実現が難しい仕組みを、生成AIにより短時間で構築することができました。



【WEB アプリの活用】



生き物との触れ合いの中で“わくわく”を見つける

～直接体験を通して～



名古屋市立大幸幼稚園 園長 亀山 美奈子

〒461-0045

名古屋市東区砂田橋5丁目6番20号

TEL:052-722-1546 FAX:052-722-1553

URL <https://nagoya.fureai-cloud.jp/daiko-k>

取り組みの概要

本園は、園庭に芝生が広がり、園庭の周りには、桜、キンカン、沈丁花など、たくさんの種類の木が植えられています。『チョウの里』と名付けられた場所には、アゲハチョウが好んでやってくるように、夏ミカンやミカンなど柑橘系の木が植えられています。また、『実のなる木』と呼ばれる場所には、ユスラウメ、アケビなどが植えられ、子どもたちが自然や生き物に触れられるように考えられています。このような豊かな環境の中で、子どもたちが直接体験を通して、“わくわく”と心を動かし、意欲的に関わっていけるように取り組んでいます。



【芝生の北園庭】



【アオムシがいるよ】



【これは何の虫だろう】

取り組みの内容

あ、丸くなった 3歳児

入園して間もないころ、自分より大きい組のお兄さんお姉さんが見せてくれたダンゴムシ。モソモソ動いたり、丸くなったりするダンゴムシの様子を「動いた」「あ、丸くなった」と教師と一緒に見ていました。そのうちに「ダンゴムシ捕まいたい」と教師と一緒にプランターや石の下を探しては、教師に捕まえてもらったり、自分で捕まえて、自分の入れ物に入れていきました。捕まえたダンゴムシをたらいに入れて「こっちのダンゴムシ大きいね」「葉っぱの下に入った」と様子をじっと見て、ツンツンと触ってみたり、手の上にのせたりする姿もありました。



【ダンゴムシを見せてもらったよ】



【ダンゴムシいた！】

【生き物との触れ合いの中での“わくわく”】

3歳児は、初めての園生活で、ダンゴムシと出会い、ダンゴムシの姿や動く様子に驚きや面白さを感じていました。そして、教師と一緒にいることで安心して、探しに出かけたり、思いのままに触ってみたりしていくうちに、生き物に親しみを感じていくことが分かりました。

サナギが落ちないようにそおっとね 4歳児

夏ミカンの木にチョウが卵を産み、アオムシになります。子どもたちは、アオムシを見つけるとは、飼育ケースに入れ、エサの葉を入れていました。毎日のように様子を見ては気にかけて、飼育ケースから出して、机の上に出して動くのを見たり、手の上に乗せて「ポヨポヨしてる」「かわいい」と触れたりしていました。サナギになると、チョウになるのを楽しみに待ち、チョウになると喜び、「きれいなはねだね」とじっくり見ては逃がしていました。ある日、ケースの下に落ちてしまっているサナギを見付け、「チョウチョになれるかな…」と心配して「ベッドを作ってあげよう」とティッシュを敷いた小さな箱に入れて見守りました。しかし、出てきたチョウは、はねが縮んだままで全く飛ばませんでした。その後、「サナギが落ちるとチョウチョになれるよ」「落ちるといけないからそおっと見るよ」と友達に伝える姿がありました。



【アオムシが手の上を歩いている】

【生き物に触れる中での“わくわく”】

自分たちで捕まえたアオムシの様子を観察したり、触れたりする中で、変化していく不思議さや、チョウになった喜びを感じていました。また、すべてが無事にチョウになれるわけではない現実を知り、チョウになれるよう願いをもって、大事にしようとする気持ちが芽生えています。実際に触れることで、生態について知識を広げ、心を寄せていくことが分かりました。



【きれいなはねだね】

オタマジャクシは小さいから優しくしてあげないとね 5歳児

オタマジャクシを飼育ケースに入れて世話をしていました。ある日、オタマジャクシの飼育ケースの水が濁っていることに気付き、「なんか臭いね。掃除をしてあげなくちゃ」「濁っているね」と子どもたちが言いました。教師が、「どうやって掃除をするといいのかな」と言うと、「知ってるよ。水を替えるんだよ」と話し、「オタマジャクシの水を替えてあげよう」と、数人で集まり、水を替えることになりました。



【オタマジャクシをそおっと移すよ】

オタマジャクシを新しい飼育ケースに移そうと、「すくうのがいるね」と、すくうためのレンゲを砂場から持って来ました。「オタマジャクシは小さいから優しくしてあげないとね」と友達同士で声を掛けながら、そおっと移し、元の飼育ケースも磨いてきれいにしました。

「水がきれいになったからよく見えるね」と眺めていると、「あれ、足が生えている子がいるよ」「本当だ」「次は手が生えてくるんだよ」「かわいいね」と話していました。そして、違う場にいるクラスの他の子にもオタマジャクシに足が生えたことを伝えに行きました。

【生き物との触れ合いの中での“わくわく”】

自分たちが育てているオタマジャクシの水を“きれいにしたい”という思いでつながった仲間と、方法や必要な用具を考えて取り組み、やり遂げたことで充実感を味わいました。それぞれが気付いたことや考えたことを教師が受け止め、試行錯誤しながら実現できるように支えることで、生き物と共生する姿につながっていくことが分かりました。

取り組みのまとめ

子どもたちが生き物と出会い、実際に見る、触れる、世話をするなどの直接体験を通して、“わくわく”と心を動かし、気付いたこと、考えたことを伝えたり、意欲的に動いたりする姿につながっていくことが分かりました。これからも“わくわく”と心が動くような直接体験を大切にしながら、豊かな感性や自ら考え、行動する力を育てていきたいと思えます。

心を動かして意欲的に遊ぶ幼児の育成 ～一人一人の思いや育ちを捉えた環境構成を考える～



名古屋市立高田幼稚園 園長 村上 恭子

〒467-0865 名古屋市瑞穂区直来町3-20

TEL : 052-871-3808 FAX : 871-3821

URL <https://nagoya.fureai-cloud.jp/takada-k>

取り組みの概要

本園は、瑞穂区に一つだけある公立幼稚園のため、昭和区や熱田区などからも園児が通園しています。各学年1クラスずつで、異年齢の触れ合いも多く見られ、温かい雰囲気のある園です。隣接する高田小学校との連携や学区の三世代交流会に参加するなど地域とのつながりも大切にしています。

昨年度より、ナゴヤ・スクール・イノベーション事業の『すすめるプロジェクト』として、「心を動かして意欲的に遊ぶ幼児の育成」を目指して取り組んできました。遊びや生活の中で、個性豊かな幼児一人一人の思いや育ちをつぶやきや行動から読み取り、幼児が意欲的に「やってみたい」と思えるような魅力的な環境の構成やそれに応じた教師の関わりを考えながら保育をしています。

取り組みの内容

『すすめるプロジェクト』公開保育

日頃より、幼児一人一人の思いや育ちを捉え、幼児が心を動かし「やってみたい」と思えるような環境の構成を工夫してきました。11月18日、幼稚園・小学校・高校の教員や大学教授・学生、約20名の参加があり、4・5歳児の保育参観と協議を行いました。参観後の協議会では、「子どもたちが自ら考えて遊ぶ姿があった」「教師が子どもの思いをよく聞きとっている」「遊びの様子に応じたイメージをかきたてるような環境の構成がされている」などのご意見をいただきました。また「子どもの発信に気付いて思いを読み取っていくことは小学校（高校）も同じである」「教師が一人一人の子どもに願いをもって関わることの大切さを感じた」など教師の関わりについても話し合いました。どの校種においても、幼児・児童・生徒理解をしっかりと行い、タイミングよく子どもとのコミュニケーションを取ることが必要であると共通理解しました。いただいた貴重なご意見をもとに、今後の実践に生かしていきたいです。



＜ゲームコーナー＞



＜ドングリ転がし＞



＜協議会の様子＞

小学校との連携 ～幼児期から小学校への円滑な接続のために～

隣接する高田小学校との連携にも力を入れています。園の夏祭りには、小学校の校長先生始め、先生方の協力を得て、楽しい遊びのコーナーで子どもたちと触れ合って遊んでいただきました。また、小学生が給食を食べている時間に幼児が小学校へ出掛け、校庭で思い切り体を動かしたり、運動会や授業参観、学校探検をさせてもらったりするなどの機会があり、幼児にとって小学校が身近で親しみのあるところとなっています。教職員も互いの授業や保育を見合うなど、相互に学び合える環境にあります。



＜夏祭りの盆踊り＞

高田学区の幼児教育施設との交流活動

高田学区には、直来保育園、民間のちばな保育園があります。各園とも単学級のため、同年齢の幼児との関わりが少ない状況です。そこで、今年度より交流活動を始めました。5歳児が豆田公園に集まって遊んだり、互いの園を訪ねたりといった様々な活動を計画し、心が動かされる経験ができるように考えました。特にクラスが一丸となって走ったりリレーはとても白熱し、楽しい時間でした。就学時検診の時期でもあり、同じ小学校へ行く友達同士が自己紹介をして顔を合わせたことで、一緒である安心感やうれしさにつながりました。



＜豆田公園での交流＞

保護者への配信

保育の中で大切にしていること、子どもの育ちや変容、楽しい行事の様子などを保育アプリで配信しています。写真入りで視覚的にも分かりやすく、読みやすい内容を心掛けています。保護者からは、「幼児の心の揺れや育ちがよく分かる」「家庭での話題になる」との声が上がり、多くの保護者が配信を楽しみにしています。また、預かり保育を利用する保護者向けに、今日の保育内容が伝達できるよう、担任が絵本や歌、遊びの内容などを書いたボードを保育後に掲示することにしました。降園時に担任に会えなくても「その日の保育内容が分かり、子どもとの共通の話題ができる」と好評です。



＜保育内容の掲示＞

取り組みのまとめ

幼児の育ちやルーツが多様化する中、日頃から教師間で話し合いを積極的にしてきたことで、一人一人の思いや育ちの多面的な捉えや具体的な援助や環境の構成が工夫してできるようになりました。さらに、隣接する小学校との連携や地域の保育所との交流活動を通して、地域とつながる大切さを感じることができました。幼児が安心して過ごし、滑らかな小学校への接続を進めるためにも、小中学校や保育所との合同研修会や職員間の交流により、視野を広げたり、自園の環境を見直したりする機会となっています。園での保育内容を保護者や地域に知ってもらおう努力や伝える方法を今後も工夫し、幼児が生き生きと意欲的に遊び、地域からも愛される高田幼稚園であるようこれからも取り組みを進めていきたいと思っています。

心身ともにすこやかで人間性豊かな子どもの育成



名古屋市立桶狭間幼稚園

園長 小塚 寛子

〒458-0918 名古屋市緑区南陵102

TEL 052-621-6018 FAX 052-622-6098

URL <https://nagoya.fureai-cloud.jp/okehazama-k/>

事業のねらい

本園は地域の歴史や有松絞り等の伝統文化が身近に感じられる地域にあります。また、園内及び園周辺には豊かな自然があり、子どもたちが自然に触れる機会がたくさんあります。こうした地域の特色を生かし、子どもたちが地域の伝統や自然と出会い、継続して豊かな経験ができるようにすることで、人間性豊かな子どもを育てたいと考えています。

事業内容

①「親子で有松絞りのTシャツを作ろう！」(5歳児 4月下旬)

園に有松絞りの講師を招き、絞りTシャツを作製しました。親子で作った絞りTシャツを着て、地域の行事や園外保育、運動会などに参加しました。

②「いろいろな野菜や身近な生き物を育てよう」(全学年 通年)

ジャガイモやタマネギ、ピーマン、トマトなど様々な野菜の苗を選んで買いに行き育てました。収穫した野菜は、自分たちで調理をして食べるという経験にもつなげています。

園庭や花壇でダンゴムシやチョウの幼虫などを捕まえ、飼い方を調べながら世話をしています。年長組はマイクロスコープを使って青虫や葉の葉脈を見て気付いたことを伝え合う姿が見られます。

③「地域の人と触れ合う会に参加する」(5歳児 11月中旬)

地域の古戦場保存会の方から、地域の歴史について話を聞いたり、甲冑体験をしたりしました。



それぞれ素敵なTシャツができました



スナップエンドウがたくさん実り、みんなで収穫しました



見て！
線がいっぱいあるよ！



地域の方に甲冑を試着させて
いただきました

事業の成果

日々の保育を通して、この地域ならではの伝統文化や豊かな自然に触れる経験ができるようにしたことで、保護者から「身近な自然や生き物に触れる中で命の大切さを学んでいる」「買い物に出掛けたり飼育物の世話をしたりすることで責任感が育っている」というご意見をいただきました。また、伝統文化の体験や地域の行事に参加することで、身近な地域の歴史を知る機会にもつながっています。

事業のまとめ

5歳児は地域の伝統的な文化や身近な自然に興味をもつようになりました。絞りTシャツを着て様々な活動に参加することで地域に親しみを感じたり、身近な生き物に触れられる環境があることで愛着をもって世話をしたりする姿につながっています。今後も地域の伝統文化や自然を自分とつながりのあるものと感じられるような環境構成や援助を心掛け、人間性豊かな子どもを育てていきたいと考えています。

「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ



名古屋市立千石小学校 校長 久野 正樹

〒464-0858 名古屋市千種区千種一丁目1-52

TEL:052-731-0758 FAX:052-732-2326

URL:<https://nagoya.fureai-cloud.jp/sengoku-e>

事業のねらい

今年度から、名古屋工業大学と千石学区連絡協議会、千種アーススクエアで行っている都市再生整備計画に参加しています。地域や保護者と学校がお互いに「当事者」となり「千石小学校・学区でよかった」と思えることを目的として、総合的な学習の時間に、子どもが主体的によりよい千石小・千石学区になるために自分にできることを考え、探究していきたいと考えました。

事業の内容

【ホップを育てる】

鶴舞・千種エリアは地下水が豊かで、元々ビール工場もあったため、水とビールとの縁が深い地域です。そこで、千石学区で行っている、ホップの栽培を学校で行いました。名古屋工業大学の研究員の方にアドバイスをいただき、ホップの穂花を咲かせることができました。

ホップの苗の到着が遅く、残念ながらホップが間いになる探究活動を行うことができませんでしたが、ホップを身近に感じることができました。

次年度以降も継続して取り組みを進めます。

【異学年探究】

3～6年生が火・金曜日の6限に、学年の枠を越えて、気になることや課題を探り、解決していく活動を行いました。2学期からは「自分もみんなも笑顔になる千石小学校」として5つのプロジェクト(池・環境・福祉・イベント・運動会)に分かれて活動しました。



【学校で育てたホップの穂花】



【みんなが集まる千石池をつくろう】

事業の成果

当事者意識をもつことができるように、ホップ栽培をはじめ、夏祭りや運動会と同日開催の学区体育祭への参加など、地域と連携して活動しました。また、「異学年探究の時間は自分を成長させていると思いますか」という質問に約84%の子どもが「そう思う」と回答しました。

事業のまとめ

総合的な学習の時間は、保護者や地域がサポーターとして活動したことで、子どもだけでなく、大人も当事者意識をもって行うことができました。子どもは交流を通じて、学校や学区への愛着を深めることができました。今後も、SDGs達成の担い手となっていけるように取り組みたいと思います。

地球の問題はわたしたちの問題



名古屋市立中川小学校 校長 武藤 敦
〒455-0003 名古屋市港区辰巳町37-6
TEL:052-661-9341 FAX:052-651-3483
URL <https://nagoya.fureai-cloud.jp/nakagawa-e>



事業のねらい

まず6年生がSDGs 17の目標や自分の生活と関連付けながら世界の国々を学ぶことで、SDGsや世界の国々の問題を自分事として捉えます。そして、学校生活でできることを考え、学校全体に発信していきます。そうすることで、1～5年生はSDGsに関心をもつことができ、6年生は、卒業後の自分たちの将来の姿をSDGsも意識して考えることができます。このように、未来の地球を守る担い手となる第一歩を踏み出せるようにすることを目標に取り組みました。

事業の内容 6年生の活動を中心に

総合的な学習の時間にSDGs 17の目標や、世界の国々の問題を図書資料やインターネットなどを使って調べました。すると、多くの国が水質汚濁や地球温暖化などの環境問題を抱えていることが分かりました。また、そういった問題に対して自分たちにもできることがあることも知ることができました。そして調べたことを下学年に伝える時間を設けました。まず現在地球が抱えている問題を伝えたあと、「手洗いのときに節水を心掛ける」「エコバッグを持参する」などといった自分たちが個々でやっていくことを宣言しました。そして最後には「ペットボトルキャップ回収運動」「給食フードロス0作戦」「SDGs川柳大会」などといった活動を学校で行うことを宣言し、学校全体でSDGsを取り組んでいこうという雰囲気をつくりました。これらの活動は、現在段階的に進めています。



【SDGs宣言】

また卒業を控えた6年生に向けて未来の夢を描く授業「ミライマップ授業」を行いました。授業の中で、まずは自分を見つめ、唯一無二の命をもっていることを確認しました。次に、SDGsと自分の将来について友達と対話しながら、それぞれが描く将来の自分や社会、地球などをイメージして「ミライマップ」にまとめました。最後に「ミライマップ」を使って、一人一人が夢宣言を行いました。これらの活動を通して、将来の自分や地球に希望をもつことができました。



【ミライマップ授業】

事業の成果

SDGsを自分事として捉え、現在そして今後もゴールの達成に向けて、一人一人ができることを継続して実践していこうという思いをもつことができました。

事業のまとめ

6年生が主体となって、学校全体に広げる活動を通して、SDGsへの関心が高まりました。今後もSDGsを意識した教育活動を進め、未来の地球を守る担い手となる中川っ子を育てていきたいと思えます。

よりよい社会の実現のために、 “今、自分にできること”を考えよう



名古屋市立小幡北小学校 校長 角屋 直樹
〒463-0008 名古屋市守山区小幡北 1801
TEL 052-791-2227 FAX 052-834-9193
URL <https://nagoya.fureai-cloud.jp/obata-n-e>



事業のねらい

本校では、よりよい社会の実現を意識して行動できるような人材を育成することを目的に、1・2年生は生活科、3～6年生は、総合的な学習の時間を中心に学習を進めている。PDCA サイクルを基にして、持続可能な目標を自ら考え、実行することができるような実践を通して、SDGs達成の担い手となっていけるような教育活動に取り組んでいきたいと考えた。

事業の内容（一部）

4年 学級活動「食品ロスについて考えよう」

SDGs目標12「つくる責任 つかう責任」への意識を高めるために、栄養教諭が「食品ロス」をテーマに、PDCA サイクルを学習活動に取り入れた授業実践を行った。実践では、食品ロスについて興味・関心をもつことができるような工夫を行ったり、「笑顔いっぱい大作戦」と称して、児童が自ら行動目標を決めて、実践できるようにしたりした。PDCA サイクルを一巡させたところで、さらなる持続可能な目標を考えることができるように、(株)セブンイレブンジャパンからゲストティーチャーを招き、企業における食品ロス削減の工夫について教えてもらった。そして、児童が作った食品ロス削減をうたう“てまえどりポップ”を店舗に飾ってもらった。実践を通して、「食品ロスを減らすために、食べられる量にする」や「好き嫌いを減らしたい」と“自分にできること”を考える児童の姿が見られた。

5年 総合的な学習の時間「インクルーシブ社会とわたしたち」

SDGs目標11「住み続けられるまちづくりを」への意識を高めるために、視覚障害がある人や社会福祉協議会の職員の方を講師として招き、体験談を聞いたり、アイマスク・ガイドヘルプ体験、車いす体験や高齢者体験を行ったりした。児童は、視覚障害があることで不自由なことはあるが、自分にできることを探して様々なことに挑戦し、できるようになっている講師の様子を知り、驚いていた。「世の中には、いろいろ不自由だと感じる人もいるから、豊かでみんなに優しい町にしたい」や「困っている人がいたら助けたい」と考える児童の姿が見られた。



【店舗に飾られた“てまえどりポップ”】



【視覚障害の方の話聞く児童】



【車いす体験をする児童】



【高齢者体験で漢字の書きづらさを感じている児童】

事業の成果

生活科や総合的な学習の時間を基軸として実践を行った。8割以上の児童からSDGsへの意識の高まりと見られる記述があった。

事業のまとめ

「環境」や「福祉」、「人権」、「国際理解」など様々なテーマの中で、PDCA サイクルを意識した学習活動を通して実践に取り組むことができた。児童はそれぞれの場でSDGsを意識した自分たちにできることを考えることができた。今後も指導を継続していきたい。

みんなで「防災」・「減災」しよう at 桜台



名古屋市立桜台高等学校 校長 伊藤 聡子
〒457-0033 名古屋市南区霞町 21 番地
TEL (052)821-0186 FAX (052)821-2855
URL: <https://nagoya.fureai-cloud.jp/sakuradai-h/>

100
桜台



事業のねらい

令和5年度より、図書館部の企画として「みんなで『防災』『減災』しよう」と題した学習会を実施しています。「名古屋 team S」※代表・大曾根 吉哉氏(本校卒業生)と連携し、「災害に強い学校づくり」を目指しています。

※平成 24 年に名古屋市・陸前高田市両市の教育委員会が「絆協定」を締結し、中学生の相互訪問による「絆交流」が始まりました。「名古屋 team S」はこの交流経験者による団体で、防災啓発や交流事業を通じて名古屋市と陸前高田市との関係を深める活動を続けています。



事業の内容

①図書館における地震時の蔵書落下防止対策

地震発生時には、蔵書が落下し、怪我をするおそれがあります。図書委員会で検討し、高書架に落下抑制ストッパーとテープを設置しました。委員と有志の生徒、「名古屋 team S」が協力して安全対策を行いました。



【落下防止対策】

②「防災かまどベンチ」の実験的使用

大曾根氏と生徒3名による発表(「陸前高田がおしえてくれたこと～あなたならどうする?」)の後、本校職員が南区の災害と食の備えについて説明しました。続いて、名古屋市立工芸高校生が製作した「防災かまどベンチ」を使って火起こしと簡単な調理を行い、非常時の「食」の重要性や衛生管理の大切さを体験的に学びました。PTAの方にも当日の運営や物品提供など、多方面でご協力いただきました。



【防災かまどベンチ】

事業の成果

「日頃の生活の中でもし地震が起きたら、と考えるきっかけになった」「早めに備えることが大事だと感じた」——図書館での安全対策や「防災かまどベンチ」の活用といった作業を通じて、生徒たちは災害時の安全確保や「食」の重要性について、より自主的に考えるようになりました。

事業のまとめ

実践的な内容を目指した今回の事業では、生徒たちが防災について主体的に学び、理解を深めることができました。今後も「安心・安全な学校づくり」を進めていきます。



SDGs をテーマとしたフィールドワークとプレゼンテーションの実践



名古屋市立名東高等学校 校長 伊藤 正規
〒465-0064 名古屋市名東区大針一丁目 351 番地
TEL: 052-703-3313 FAX: 052-703-3401
URL: <https://nagoya.fureai-cloud.jp/meito-h/>



事業のねらい

本校の国際英語科の学校設定教科「ワールド・スタディーズ」では、1年生と2年生がSDGsに関連した世界や日本の諸問題について学びを深めています。特に2年生は自分たちの興味関心を基にゼミをつくり、フィールドワークやプレゼンテーションなどの実践的な活動に取り組みます。今回の実践では、フィールドワークで学んだことを基に、英語やICT機器を活用しながら、SDGs達成のためのアイデアについて発信するスキルを育てることをねらいとしました。

事業の内容

①ゼミをつくる・活動計画を立てる

同じ社会課題に興味のある生徒同士でゼミをつくります。伝統文化の継承・ヤングケアラー・若者の自殺・ハラスメント・多文化共生・防災・ウクライナ支援など全部で14のゼミができました。中間発表では、フィールドワークの行き先などの活動計画をお互いに発表し合いました。



【フィールドワークの様子】

②フィールドワーク

夏休みにはゼミごとにフィールドワークを行い、研究テーマに応じて外部団体を訪問したり活動に参加したりしました。例えば、ウクライナ支援のゼミは、認定特定非営利活動法人レスキューストックヤードを訪問し、日本で暮らすウクライナ避難民の方々の現状について学んだり、ウクライナの文化に触れたりする機会を持ちました。



【城南外国語高校での発表】

③韓国の姉妹校（城南外国語高校）での発表

10月には韓国の城南外国語高校を訪れ、14のゼミごとにフィールドワークの成果を発表しました。英語での発表と質疑応答を行い、韓国の生徒たちも日本のSDGsに関する取り組みに興味を持ってくれました。



【名古屋市立大学での発表】

④名古屋市立大学「サステナビリティ・プレゼンアワード2025」での発表

11月には、防災のゼミが「災害時の共助に向けて～外国人に働きかける・協働する～」というテーマで、名古屋市立大学で発表しました。ICT機器を効果的に活用することで参加者の理解が深まりました。

事業の成果

フィールドワークを通して、生徒たちはNGO・NPO・企業などで行われているSDGs達成のための取り組みについて知り、自分たちにできることを積極的に考えるようになりました。プレゼンテーションでは、様々な方法でSDGs達成のためのアイデアを伝え、フィードバックをもらうことができました。

事業のまとめ

一連の学びを通して、生徒たちは社会の現状を自分事として捉えて活動し、発信力を磨くことができました。冬休みにはSDGs達成のために行動することを目標に、ソーシャルアクションに取り組みます。3学期には1年生に2年生の活動について発表をする予定です。

夢と命の絆づくり推進事業（重点コース）

ウェルビーイングを実現する東桜っ子!!

～「言葉の力」プロジェクトを通して～



名古屋市立東桜小学校 校長 加賀 幸一
〒461-0005 名古屋市東区東桜一丁目13番1号
TEL 052-961-7877 FAX 052-961-8597
URL <https://nagoya.fureai-cloud.jp/higashisakura-e>



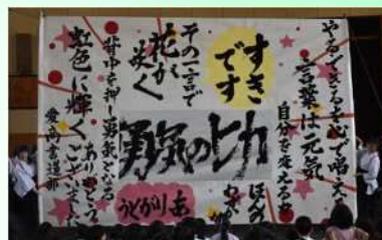
事業のねらい

昨年度、東桜小のING スローガンが「助け合う 優しい心 大切に」と全校投票で決定しました。子どもたちは、このスローガンをもとに、いじめのない東桜小にするために、「言葉」を大切にすることを考えました。そして、大人が考え付かないような様々なアイデアも出してくれました。子どもたちの願いや想いを実現し、子どもたち自身でいじめのない学校を創り上げていくことができるようにしたいと考えました。

事業の内容

「言葉を大切にすプロジェクト」(自分の言動に責任をもたせる)

メディア関係や警備会社など、様々な方を講師にお招きし、自らが発する言葉の重さやネットによる言葉の怖さなど、「言葉」が与えるマイナスの影響について考えました。また、書道パフォーマンス甲子園常連の愛知商業高校の書道部を招いて、書道パフォーマンスを披露していただき、言葉のすばらしさを実感させ、言葉のプラスの影響について気付かせることができました。



「言葉を広げるプロジェクト」(すてきな言葉があふれる学校にする)

全校の子どもたちと教職員、保護者、地域の方が「大切にしたい言葉」を書き、それをとびきりの笑顔と一緒に写真に撮って、つなぎ合わせてモザイクアートを作りました。高学年はタブレット端末を活用して互いに撮り合い、低学年はペア学年の高学年が笑顔を引き出しながら撮影しました。モザイクアートのデザイン(東桜小オリジナルキャラ)も子どもたちが考えました。



「希望の言葉を抱くプロジェクト」(未来への希望があふれるようにする)

子どもたちの願いから様々な職種の方を講師に招きました。医療関係者や飲食関係、ダンサー、おもちゃメーカー、金融企業、スポーツ選手など、様々な方から生き方や考え方を学びました。子どもたちからは「将来が楽しみになった」と希望を抱く言葉が聞こえてきました。保護者にも授業を参観していただき、学校と家庭が一緒に子どもの未来を考えることができました。



「言葉を伝えるプロジェクト」(「言葉の力」を広げるようにする)

言葉を大切にす群読の発表、自分たちの思いを叫ぶ児童会企画、未来への夢や希望を発表する会など、学んだことを通して様々な発表会を行いました。その中で、「言葉には大きな力がある」ということを伝え、子どもたち一人一人に意識させるとともに、聞いている子どもたちや保護者の方にも言葉の力を強く印象付けることができました。



事業の成果

6月と11月にアンケートを実施したところ、「絆を大切にすと思いますか。」という項目が3.4%から4.0%に、「夢や目標に向かって努力していますか。」という項目も2.9%から3.4%に上昇するという結果が得られました。また、「『言葉』は誰かを幸せにするためにあると思う」「『言葉』の力を使ってより良い学校にしたい」など、言葉を大切にしようとする思いが広がりました。様々な企業や団体の方々の協力、子どもたち自身のひたむきな努力を通して、一人一人が社会性を育み、自己肯定感を高めることにつながったと考えます。

事業のまとめ

年間を通して継続して言葉の力について考えたり、主体的な活動を多く取り入れたりしたことで、子どもたちの中に、「言葉は大切」「自分も友達も好き」「未来が楽しみ」といった感情が芽生え始めています。東桜小では、子どもたちのウェルビーイングを目指しています。今後も、言葉を大切にすることと主体的に行動すること、様々な人と関わることで、ウェルビーイングを高めていきたいと思ひます。

I LOVE 野田



名古屋市立野田小学校 校長 大矢 新吾

〒454-0912 名古屋市中川区野田一丁目 545 番地
TEL 052-351-6727 F A X 052-352-9479
URL <https://nagoya.fureai-cloud.jp/noda-e>



事業のねらい

本校の児童は地域の方々にお世話になっており、感謝の気持ちを抱いていますが、いつも、「してもらい」が多く、受け身の状態が課題でした。我が町、野田をもっとよいものにするために、自分たちから地域の魅力を発信したり、地域の方々に関わったりすることを考え取り組むことで、もっと地域への愛情を高めたり、地域の方々とのつながりを強めたりすることができると考え、これらの実践に取り組みました。

事業の内容

1年 つながろう！昔遊び

けん玉やお手玉などの昔遊びを通して学区の敬老会の方々と交流しました。中には初めて見る昔の遊びがあったようで、どのように遊ぶのか興味津々な児童の様子が見られました。授業後には感謝の気持ちを手紙にまとめ、後日来てくださった方々に渡しました。

2年 「おはよう」から仲良くなろう

もっと挨拶が通い合う学区にしたいという願いの下、登下校時に見守り活動をしてくださっている方々に、挨拶を促すメッセージが書かれたうちわを送りました。その後、元気な挨拶が通い合う学区にしようと、地域の方々と一緒に下校時に挨拶運動を行いました。

3年 モルック大会と犬千代ルート

学区スポーツ振興会の方々とモルック大会を開きました。モルックの上手な地域の方からアドバイスをもらったり、ゲームをしたりするなど、ニュースポーツを通して地域の人たちと交流することができました。また、学区を通る前田利家ゆかりの犬千代ルートにある名所旧跡を調べ、学区の観光スポットとしてまとめました。

4年 身近な防災

社会科で学んだことを生かして学区の方々に防災意識を高めてもらおうと、備えておくよい防災グッズの実物を用意し、学区のコミュニティーセンターに展示しました。また区民の防災意識を高められるよう作成した壁新聞は、区役所に展示する予定です。

5年 地域の伝統を受け継ぐ 前田利家音頭

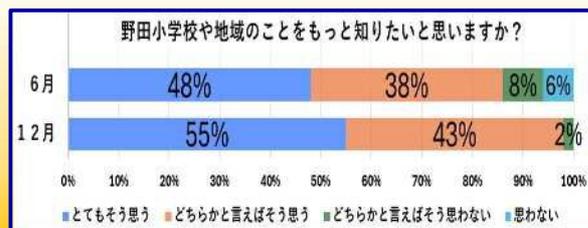
毎年「日本ど真ん中祭り」にも参加している中川区のチームを招き、前田利家音頭の振り付けを教えていただきました。学区・地域の皆さんにも親しまれている前田利家音頭を本校では運動会で披露しています。5年生はいよいよ来年自分たちが演じるのだとワクワクしながら一緒に練習をすることができました。

6年 野田小 CM・広告をつくろう

広告代理店の方を講師に招き、広告の役割などについて学習した後、野田小学校や野田学区のよさを紹介するCMや広告を作りました。作った広告は地域の回覧板で、学区の方々に回覧し、CMは野田小学校の Youtube チャンネルを活用して児童に紹介しました。入学説明会や新年度の入学式でも作ったCMを披露する予定です。

事業の成果

「学校や地域のことを知りたいと思いますか」という質問に、約98%の児童が「思う」と回答しました。6月当初の調査より、12ポイントも上昇したことが分かります。学校や地域のどんなところを自慢したいかを尋ねると、「みんなが優しいところ」や「地域の方々がいち見守ってくれているところ」などの記述が多数見受けられました。事業を通して自分たちの学校や地域のよさを再確認することができたようです。



事業のまとめ

学区や地域の方々へ自分たちができることはないか、つながりをもてることはないかを考え、実践しました。自分たちの取り組みが地域の方々の役に立ったり、喜ばれたりしていることを知ると、児童たちもとても満足そうにしていました。また地域の方々や伝統に触れることで、ますます野田学区のことを好きになる子が増え、地域への愛着がわいたようです。

夢と命の絆づくり推進事業（重点コース）

学校まるっと居場所プロジェクト ～子どもがつくる『ほっとスポット』～



名古屋市立小坂小学校 校長 光川 秀成
〒458-0022 名古屋市緑区小坂一丁目1001番地の2
TEL052-878-7990 FAX052-878-7992
<https://nagoya.fureai-cloud.jp/kosaka-e>

事業のねらい

本校では、いじめの早期発見に注力し、いじめの防止に取り組んできました。その中で、本校でのいじめが起こる背景に、「孤立」や「居場所のなさ」といった子どもたちの内面の問題が根底にあることが要因の一つであることがわかりました。

そこで、子どもが主体となって「安全・安心な空間（＝ほっとスポット）」をつくり出すことで、いじめの未然防止を図りたいと考えました。また、学校全体ですべての子どもを巻き込むことにより、孤立を防ぎ、相互理解と支え合いの文化を醸成したいと考え、本実践に取り組みました。

事業の内容

生活委員会の「みんなが安心して過ごせる学校づくり」を目指した活動の中で、子どもたちから「中庭をもっと活用したい。みんなの憩いの場にしたい」と声が上がりました。本校の中庭は、「口」の字の校舎の真ん中に位置し、ほとんどの教室から中庭を見ることができ、集いやすい場所にあります。

そこで、子どもが安心して過ごせる「ほっとスポット」の創作に取り組みました。まず、子どもたちが集い、会話を楽しむことができるように、ベンチを設置しました。ベンチの使い方については、生活委員がどのように使用するとよいかを考え、その内容を児童集会で全校の子どもたちに伝えました。

次に、誰もが立ち寄れる温かい雰囲気のある居場所にするため、中庭の花壇を整備し、レンガを使用した円形の花壇をつくりました。レンガを配置する際には、教職員だけでなく子どもたちにも関わってもらい、子どもたちが主体となってつくる「ほっとスポット」となるようにしました。

全校の子どもで苗を植え、来年度の春には、きれいな花を咲かせて、さらに温かい雰囲気の中庭になるようにしていきます。



【中庭のベンチ】



【中庭の花壇】

事業の成果

10月に実施した学校評価のアンケートにおいて、「子どもたちは人が嫌だと感じる言葉や行動に気をつけようとしていますか」という安全・安心に関する項目で、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した子ども、保護者、教職員は、いずれも9割以上でした。

事業のまとめ

「ほっとスポット」の中庭に子どもたちが集い、会話を楽しむことで、互いの絆が深まり、楽しいことだけでなく、不安なことや気になることなどを友達に相談する姿が見られるようになりました。また、子どもの声から始まった取組のため、子どもたちのいじめ防止に対する意識の高まりが感じられました。

今後も、「ほっとスポット」の維持管理とともに、子どもたちにとって安全・安心な学校づくりに努めていきます。



一人一人の思いに寄り添い、自分色に輝く生徒が育つ東星に ～Tosei HEART Plan の具現化を目指して～

名古屋市立東星中学校 校長 久保 昭彦
〒464-0808 名古屋市千種区星が丘山手 105 番地
TEL 052-783-1188 FAX 052-783-1186
URL <https://nagoya.fureai-cloud.jp/tosei-j>



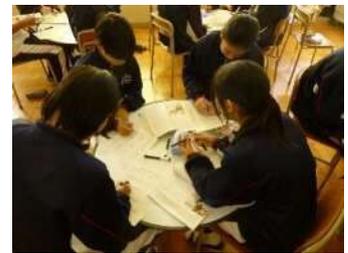
事業のねらい

本校では多様な学び方や学校生活のあり方を求める生徒が増えています。中には「行事には参加できるが、日常の学校生活には不安がある」「学習に自信が持てない」などといった声が生徒から聞かれます。こうした状況を踏まえ、今年度は Nagoya HEART Plan の理念をもとに、「魅力ある学校づくり」、「保護者との協働」、教室以外の居場所「なかまっちルーム」の整備を柱に、一人一人の思いや願いに寄り添う学校を目指したいと考えました。

事業の内容

① 魅力のある授業づくり

魅力のある授業づくりを推進することで、生徒一人一人が安心して学ぶことにつながれると考えました。円形のホワイトボードなどのコミュニケーションツールを活用し、生徒同士がコミュニケーションを図る機会を意図的に増やしました。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業改善を進めることができました。



【円形のホワイトボードを活用する様子】

② 保護者と共に不登校について考える現職教育

不登校ジャーナリストの石井しこう氏を招き、保護者参加型の現職教育を実施しました。「不登校には休みが必要」という結論を軸に「不登校の子が目指したい姿」や「心が回復するまでの地図」などについて、ご自身の経験を基に講演していただきました。保護者の方から「子どもとの向き合い方が分かるようになってよかった」「子どもが回復に向かっていることが分かって安心した」という感想をいただきました。一人一人の思いや願いに寄り添うためにできることを教職員と保護者が共に考えることができました。



【保護者参加型の現職教育の様子】

③ 生徒主体の居場所づくり

「なかまっちルーム」の利用者が、自分で考えたことが実現される経験をすることで自己有用感を味わうことができると考えました。「なかまっちルーム」を魅力のある場所にするために、利用する生徒が部屋に必要なだと主体的に考えたビーズクッションや書籍などを整備しました。



【なかまっちルームの様子】

事業の成果

「あなたは、誰かの役に立っていると思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合、事前事後で13%の上昇が見られました。保護者参加型の現職教育では、参加した全ての保護者から4段階評価の最高評価を得ることができました。

事業のまとめ

Tosei HEART Plan の具現化を目指し、授業改善の推進、保護者との協働、安心して過ごせる居場所づくりに取り組みました。生徒の自己有用感が高まり、保護者との連携も強化されました。今後も、一人一人の思いに寄り添い、安心して自分らしさを表現できる環境を整えながら、一人一人が自分色に輝く学校を目指していきます。

出合いを力に～想いを広げる手～



名古屋市立当知中学校 校長 志村 虎三
〒455-0804 名古屋市港区当知一丁目 608 番地
TEL 052-381-9880 FAX 052-383-9477
URL <https://nagoya.fureai-cloud.jp/tochi-j/>



【生徒が作成した手形と手紙】

事業のねらい

全校生徒の生活がより豊かなものとなるように、特別支援学級が中心となり、人権に関する活動や行事などを企画し実践しています。生徒一人一人が参画し自尊感情を育み、平和や人権について考え、出合いを大切に、自分や仲間を大切にする思いを育みたいと考えました。

事業内容

① 世界中の同世代の子どもの生活、平和について(5・6月)

絵本『Dear 16 とおりのへいわのちかい サヘル・ローズ著』をもとに、世界の子どもの生活を知り、多文化共生の理解を深めました。また、全校生徒が「私にとって平和とは」について絵や文章で表現し、それらを校内に掲示しました。思いを共有し、優しさや思いやりについて考えることができました。



【生徒が作成した私にとっての平和とは】

② いじめ、平和、人権についての講話と難民キャンプに届ける手形スタンプと手紙の作成(11月)

サヘル・ローズさんに来校していただき、自身の生き立ちや人権について講演をしていただきました。また、手形のスタンプを



【送る手紙をもつ生徒達とサヘル氏】

押し、難民キャンプで生活する同世代の人にメッセージを添えて手紙を作成しました。講演で感じたことや考えたことを、学級や学年、学校全体で共有し、サヘルさんだけでなく、家庭や地域にも思いや願いを発信しました。「平和」や「幸せ」について考え、日常生活や家族、身近な人との繋がりが大切なものだと感じ、命の絆について意見を交換しました。

事業の成果

「物事に取り組むとき、人と協力したり助け合ったりしますか」という質問に、「とてもそう思う」と答えた生徒が、事前の41%から事後では53%に増えました。また、「絆は大切だと思いますか」という質問に、「とてもそう思う」と答えた生徒が、事前の58%から事後では72%に増えました。生徒の振り返りには、「命、人権について皆と考えることができた」や「自分を大切にして、できることから行動していきたい」などの記述が多く見られました。

事業のまとめ

今回の活動で、生徒の自尊感情を育み、生徒はより主体的に物事について考えることができました。生徒は講話を聞き、仲間と意見を交流したことで、「命、国籍、人権」について理解を深め、自分の平和や幸せについて考えました。生徒一人一人が平和や幸せについて考えることで、人との絆を大切にする気持ちや豊かな心を育むことができました。

夢と命の絆づくり推進事業（一般コース）

第三幼稚園 自分がすき 友達がすき 遊びがすき ～自分らしさを発揮する表現活動をめざして～



専門講師による絵画指導



展示会の様子

「子どもの絵は感動である」実物を見る・触る・かぐなど幼児が心を動かす経験をし、心の中に伝えたいもの・ことが育まれていくような楽しい経験を日々積み重ねていくことの大切さを表現活動の専門講師から学びました。また、専門講師による継続的な指導により、幼児が自分の思いやイメージを膨らませ、伸び伸びと表現したくなるような言葉掛けや環境の構成を教師が学ぶことで、幼児があまりのままに表現することが好きになり、自信をもつことができました。

自分の思いを込めた絵の展示会を園内外で実施し、友達や保護者、地域の方々、小中学校教員に認められる機会をつくりました。このことで、自尊感情が生まれ、物事に前向きで柔軟な考えをもち、友達との遊びや生活を自分たちで充実させていこうとする姿が見られるようになりました。

星ヶ丘小学校 自分らしく学び続ける星ヶ丘の子



サークル対話の様子



代表委員が企画をする様子

本校では、「安心して学べる関係・環境づくり」「自己調整の基盤づくり」「自己調整学習と探究学習」の3つの指針を「星小コンパス」として掲げ、心理的安全性が確保された環境で豊かな人間関係を築き、その上で自律的な学習基盤を確立し、自ら学びを調整しながら探究を進めるという段階的なアプローチで実践を進めてきた。

今年度は「きらきらタイム」と「きらきらフェスタ」でその基盤づくりを行った。朝の帯時間を「きらきらタイム」と名付け、サークル対話や係活動、異学年交流を行った。また、「きらきらフェスタ」では、高学年が中心となりペア学年の児童と回る店を決め、店を回りながらスタンプラリーを完成させるという子どもたち中心のお祭りを行った。これらの取組により、「星小コンパス」達成に向けての成果を上げることができた。

上名古屋小学校 仲間との絆を深めよう



ひふみコーチングの様子



自分の夢を伝えている様子

本校では、「相手を大切にし、思いやりの気持ちをもつ」「自分を大切にし、自信をもつ」「ダメ、いじめ。ダメ、そのいじり・ふざけ」「自分のため、みんなのため、きまりを守る」の4点を重点に「あったか上名」の取組を進めている。

相手を大切にし、その絆を深めていくためには、自分自身を大切にすることが重要である。そこで、自分自身を知り、友達と認め合ったり、応援し合ったりしながら、絆を深めることが期待できる「未来マップ」の制作活動を行った。

活動の導入では、「ひふみコーチング！」を行い、自分の特性に気づき、友達と尊重し合うよさを感じることができた。また、自分の夢を伝える活動では、友達の考えを肯定・共感し、応援し合うことで、夢の実現に向けたやる気を高めることもできた。今後も、互いを認め合いながら、絆を深めることができる活動を継続したい。

南押切小学校 あなたも わたしも みんな大切



生成A1と偏見に関する学習



ポッチャ体験

本校では、様々な立場の方の生き方や考え方の違いを知り、認め合い、自他を大切にできる児童の育成を目指して取組を行いました。

○ インターネット上における人権問題について講師を招き、1～4年生では、写真などを含む個人情報を扱う際には細心の注意を払うことが大切だと学びました。また、5・6年生は生成A1がインターネット上の偏見を反映してしまうことを知り、少数派の意見も大切にすることが必要だと学びました。

○ パラスポーツについて説明していただける講師の方を招き、全校児童がポッチャ体験を行いました。座ったままボールを投げる体験を通して、行動を制限された中で活動することの難しさを感じるとともに、パラスポーツの体験を通して、誰でも楽しめる良さを味わうことができました。

比良小学校 一人一人がつくる思いやり 自分と友達を大切にする活動の充実を目指して

本校では、児童が互いに認め合える活動として「ひらHOTホッと週間」を学期に1回設定して実施している。



ひらHOTホッと週間の取組

「ひらHOTホッと週間」に、心が温まった体験談や、友達への感謝の気持ちをカードに書き、全校児童が見ることができる掲示板に掲示したり、放送で紹介したりした。この活動を通して、温かい気持ちを広げることができた。

1学期には同じ学年の友達に、2・3学期にはペアグループで一緒に活動している学年の友達にメッセージを書くことで、よりよい人間関係を築ききっかけとすることができた。

また、友達から温かいメッセージを送られることで、児童一人一人の自尊感情も高めることもできた。

ほのか小学校 深めよう ほのかっ子の絆 ～笑顔の花を咲かせよう～



挨拶活動を行う様子



スピーカーを使い体操を行う様子

本校では、児童が互いのよさを認め合い、協力して生活することを目指し、挨拶活動や異学年交流たてわり活動に取り組んでいる。今年度は、それらの活動を継続するとともに、以下の取組を、児童が主体となって企画・運営した。

○ 挨拶活動では、児童会が毎朝正門に立ち、元気な声で「おはようございます」と呼び掛けた。さらに、たてわりグループや学級ごとの挨拶活動も取り入れ、仲間とのつながりを実感できる場を広げることで、絆を深めることができた。

○ 児童会が中心となって全校に呼び掛け、「ほのかやる気まんまん体操」を実施した。手軽に使えるミキシングスピーカーを活用したことで、体育館に音楽と元気な声が響き渡り、笑顔と活気があふれる時間となった。この活動を通して、仲間との関わりや一緒に活動する楽しさを味わい、絆を深めることができた。

松原小学校 仲間との絆を深める松原っ子の育成



出前授業の様子



ペア鑑賞の様子

本校では、「子ども中心の学び」を意識した学習活動の工夫を通して、学びながら互いの信頼関係を築き、仲間との絆を深めていく子どもを育成したいと考えた。

名古屋市教育センター相談員で、愛知学院大学教授の八田純子氏を講師として招き、5年生を対象に出前授業をしていただいた。子どもたちは、4人グループで試行錯誤しながら、ストローを用いてできる限り高いタワーを作り上げた。活動を通して、プロジェクトを成功させるには仲間を信頼することが大切だと学んだ。

縦割り活動「なかよしタイム」では、6年生が縦割りグループをまとめ、下学年の子どもが6年生を支える雰囲気を作った。月1回、グループで遊ぶことを通して、仲間との絆を深めていった。展覧会では、1・6年、2・5年、3・4年のペア鑑賞を行い、互いの作品のよいところを認め合いながら、絆を深めることができた。

大須小学校 夢中になれる大須っ子の育成

表面



裏面



完成したオリジナルうちのデザイン

本校では、年間を通して1～3年、4～6年生の児童が縦割りでふれあいグループをつくり、交流している。誰もが楽しむことのできる交流活動の内容を自ら決めたり、上学年の児童が下学年の児童に教えたりすることで、自己有用感の醸成を図り、絆を強めることができると考えている。

各学級で熱中症対策に使用するうちのデザインのアイデアを全校児童から募り、集まったアイデアから代表・企画委員会が中心となってデザインを作成した。子どもたちは自分たちがデザインしたおそろいのうちの完成を心待ちにしている。

また、総合的な学習の時間にPBLに取り組むOPT（大須プロジェクトタイム）を実施している。PBLサポーターの東條さおり氏を招いて、OPTの授業で支援していただいたことで、子どもたちは夢中になって学習に取り組むことができた。

村雲小学校 「たい！」が生まれる教室に ～仲間とつながり、ともに学ぶ探究活動～



縦わりタイムの様子



人権講話の様子

本校では「たい！」が生まれる教室を目指し、仲間とともに学ぶ探究活動を展開してきた。「縦わりタイム」では、異学年で遊びを企画・運営し、高学年は思いやりをもってリードし、低学年は安心して挑戦し仲間にも認められる経験を積むことで、主体的に関わろうとする姿がみられた。「村雲たい夢（む）」では、「知りたい・やってみよう」を出発点に、総合的な学習の時間や各教科の探究活動を組み合わせ、地域の職業人へのインタビューや自分の問いから学びを深める活動を行った。また、拉致問題の当事者であり、大学教授でもある蓮池薫氏を招き人権講話も実施した。社会課題に触れることで「誰もが尊重される権利」を自分事として捉える態度を育んだ。仲間と協働し、互いに尊重しながら学び合う力と、未来を主体的に描こうとする意欲を高めることにつながった。

高田小学校 高田っ子ハート♡～大切な5つの心～



フレンドリータイム



挨拶運動

本校では、**H**：人に優しく **E**：笑顔を忘れず **A**：「ありがとう」と「挨拶」を忘れずに **R**：楽な気持ちで粘り強く **T**：たゆまず学び続けよう の大切な5つの心「高田っ子ハート♡」を意識した活動に取り組んでいる。

「フレンドリータイム」では、業前の時間に1・6年、2・5年、3・4年の児童が、ペアグループで遊びを相談したり一緒に遊んだりする、異学年交流をしている。活動を通して、自分の役割を自覚し、互いに関わり合う喜びを感じることができる児童の育成を図っている。また、挨拶運動では、4年生以上の児童が、児童委員会ごとに毎朝交代で活動し、全校の挨拶力向上を目指している。今年度は、代表委員会が挨拶のポイントをデザインした旗を制作し、児童の意識を高めた。今後も、「高田っ子ハート♡」を意識することで、笑顔を忘れず互いを思いやる気持ちを育てていきたい。

井戸田小学校 広げよう！笑顔の輪



マスコットキャラクター



オリジナルバッジ(デザイン)

本校では、児童同士が互いの良さに気付き、互いを認め合うことができる児童の育成を目指し、代表委員会が中心となり「ふれ合い活動」や「朝の挨拶運動」に取り組んでいる。

「朝の挨拶運動」では、毎朝登校時に代表委員の児童が校門付近に立って挨拶の啓発運動を行っている。また、毎月4日、15日には、「よい子の日」と称して地域の方にボランティアとして挨拶運動に参加していただいたり、マスコットキャラクターを活用したりして、全校児童に向けて挨拶の促進をしている。

今年度は、児童が中心となって「オリジナルバッジ」のデザインを考案、作成し、全校児童に配布した上で「朝の挨拶運動」を行った。児童が自発的に活動することで、挨拶運動も活気づき、笑顔の輪が広がってきた。

旗屋小学校 他者評価を取り入れたキャリア教育の充実 - 「旗屋っ子の夢づくり」パワーアップ -



コーヒーを淹れる様子



互いのよさを認め合う様子

本校は、昨年度からキャリア教育の充実に力を入れている。本年度は、職業体験「わくわくワークショップ」だけでなく、体験後に認め合い活動「ほめほめタイム」を取り入れて実施した。キャリアナビゲーターと連携し、高等専修学校（マンガイラストコースとダンスコース）の学校関係者、理学療法士、カフェスタッフ、ホテルスタッフ、商品企画の会社員を招き、児童は自分で選択した二つの職業を体験した。

各職業特有の楽しさや難しさを実際に体験した後、タブレット端末のアプリケーションを活用して、同じ職業を選んだ児童同士で認め合い活動を行った。友達からの言葉に、驚きながらお礼を言ったり、相づちを打ったり、一緒に笑ったりする児童の姿が印象的だった。多くの児童は、自分の「好き」や「できる」を見付けることができ、自尊感情を高めることができた。

千年小学校 世界の友達と交流しよう



活動の様子

本校は、日本の文化や外国の文化を知る活動において、多様な人との関わりを重視しながら取り組んでいる。日本の伝統文化を知るために、地域のお茶の先生を招いて和室でお茶の体験活動を行った。また、中国の民族楽器である二胡の演奏家として活動しているチャン・ビン氏を外部講師として招き、6年生児童を対象に演奏鑑賞会と二胡の演奏体験会を実施した。

これらの活動を通して、児童は自国の文化を大切に守り継承していくことの大切さを知ることができた。また、中国と世界の国々を結ぶ架け橋になりたいというチャン・ビン氏の思いに触れたことで、児童は自分がこれからどのように生きていくかということを考えるきっかけとすることができた。現在、児童が多様な他者と関わることを目的とし、南京の小学生との交流を進めている。

露橋小学校 元気に登校 笑顔で下校 ～みんながいつでも安心して遊べる学校～



リニューアルした相談室



教室で遊ぶ様子

本校では、「元気に登校 笑顔で下校」のスローガンの下、「みんなが」「いつでも」をキーワードに、子どもたちが安心して遊べる環境を整えることを目指した。

① 相談室劇的 Before After!

「プレイセラピー」に使用できるブロックやぬいぐるみ、体を動かして気分転換できる室内遊具などを購入し、相談室をみんなが安心して遊べる場所にリニューアルした。子どもたちにとって、元気が出ない日や悩みがあるときの拠り所となっている。

② 雨の日をもっと楽しく大作戦!

学級ごとに希望を募り、室内で遊べるおもちゃを購入した。子どもたちは、運動場で遊べない日には誘い合ってカードゲームやボードゲームで仲良く楽しんでいる。友達との仲が深まると同時に、雨の日のけがや事故を防ぐことにもつながっている。

愛知小学校 広げよう！わたしたちの「好き」「できる」

～キャリアタイムにおける交流活動を通して～



車いすバスケットボールを体験する様子



書道家による講演の様子

本校は、児童一人一人が自分の「好き」や「できる」を増やし、広げることで、自尊感情を高めることができるよう、生活科や総合的な学習の時間に、外部講師を招いて交流したり、共に学びを進めたりする活動を位置付けている。

4年生では、福祉の学習として、障害のある方を招いて行った手話体験や車いすバスケットボールなどを通して、障害についての理解を深め、障害のある方のためにできることについて共に考えた。6年生は、自分の好きなことを仕事にしている書道家や企業の方の講演を聞いたり、自分の生き方を見つめ、未来を思い描く活動を行ったりした。どの学年においても、様々な方との交流を通して、自分自身を見つめ直し、「好き」や「できる」を増やすことができた。

八熊小学校 レジリエンスを高めて、笑顔あふれる八熊っ子

～コミュニケーション能力とつながる力を通して～



取組後の成果物



講演会視聴の様子

本校では、キャリア教育全体目標である「自分の良さ、友達の良さについて気付き、自分らしい生き方を描こう」を基に、保健委員会の児童を中心とした「レジリエンス」を高める活動を行っている。1学期には「八熊っ子 気持ちの良いコミュニケーションできるかな？」の取組を行った。子どもたちが「ありがとう」「すごいね」「手伝うよ」といったプラス志向の言葉を使い、友達とより良いコミュニケーションを行っている姿を多く見る事ができた。高学年の児童には、より良い自分の未来を創造する力を養う機会として、障害がある方やスポーツ選手の方の講演会を実施した。視覚障害がある方の講演を聞いた子どもたちからは、「協力したい」「助け合う」などの声を聞くことができた。

正色小学校 「正色、大好き！」～笑顔あふれる縦割り班活動の充実～



遊びを決める話し合いの様子



フレンドリーランチの様子

本校では、昨年度から朝の時間に「フレンドリータイム」と称した縦割り班遊びの時間を設け、児童が主体となって、1～6年生が楽しめる様々な遊びの計画を立てられるようにしている。今年度は、その遊びの選択肢を広げたり、「ともに『遊ぶ』」だけでなく、「ともに『食べる』」活動である「フレンドリーランチ」と称した縦割り班給食を実施したりし、充実を図った。

学期初めに行った遊びを決めるための話し合いでは、高学年が下学年の意見を優しく聞き取る姿が見られた。自分たちで決めた遊びに取り組んだり、一緒に給食を食べたりと、回を重ねるごとに自然と友達との絆を深めることができた。時間の終わりには、笑顔で「またね。」などと挨拶を交わして教室に戻る姿が見られた。児童がより一層学校を好きになり、仲間意識を深めることにつながった。

西中島小学校 つながれ！ にしなかつ子



ペア学年での活動の様子

本校では、1～3年生と4～6年生の児童がペアになって活動する異学年交流「なかよし学級」を行っている。「なかよし学級」では、なかよし代表委員が中心となって、異学年で集まって楽しく遊んだり、敬老会のプレゼント作りを協力して行ったりすることで、互いのよさを認め合い、学校生活をよりよくしようという思いを育むことをねらいとして、全校で取り組んでいる。

今年度は、学校マスコットキャラクターの「西にゃん」のオリジナルスタンプを制作した。児童から募集したイラストを元に、どんな様子の西にゃんの絵を描くのかについて話し合うことで、互いのよさを認め合い、学校生活をよりよくしようという思いを育むことができ、仲間との絆がより深まった。

制作したスタンプは今後の「なかよし学級」で活用していく。

高木小学校 合言葉は、みんなでハッピー！～「きずな」づくりを目指して～



共同制作した作品



デジタル掲示板の活用

本校では、「みんなでハッピー」というスローガンを掲げ、児童の主体性と認め合いを大切に教育活動を展開している。11月の作品展では、「みんなでハッピー」を具現化する共同制作を行った。共同制作では、似顔絵を描いた紙皿を集め、モザイクアートとして展示した。紙皿に似顔絵を描く際に、高学年が低学年の思いを聞き、思いを表現するためのアドバイスをしながら、楽しく制作活動を進める姿が見られた。また、作品展当日には、デジタル掲示板を活用して、制作過程を発信したことで、保護者の方から、「それぞれの学年の頑張りが見られて、とてもよかった」という声が多く寄せられた。昼の休み時間には、「ペアハッピータイム」というペア学年による交流の時間を設定した。各学級で遊べるカードゲームの数を増やし、室内遊びを充実させることで、異学年で楽しく交流する児童の姿が多く見られた。

成章小学校 夢に向かって、自分らしく生きる



授業の様子



制作する様子

外部講師を招いて「未来の自分について考えることを通して、将来像を描いていく」ことについて話を聞き、自分の未来に対する固定概念を取り除き、無限の可能性を感じながら自分と向き合う場を設定した。「ビジョン・スイッチ・プログラム」の自分の中の「スイッチ」を探す活動を通して、将来どんな自分になりたいかや就きたい職業、興味のあること等を想像して「ビジョン・シート」を制作した。制作の過程を経て、夢へ向かっていく自分をイメージすることができた。

その後、自分の未来や夢、希望について言葉で伝え合って共有することで、自分の未来を明確にしたり、共に応援し合う仲間存在についても感じたりすることができた。今後も、自分の未来を見通し、夢に向かって自分らしく、生きようとする児童を育てていきたい。

西福田小学校 自分らしく生きる ～本物のヒト・モノ・コトとの出会い～



生産技術体験の様子



イラストレーター体験の様子

5・6年生を対象に「生産技術」「イラストレーター」「手作りコスメ制作」の仕事体験を行った。単に体験を行うだけでなく、仕事の内容や、その仕事を選んだ理由、仕事へのやりがい、こだわりなどの話などを聞き、なりたい自分になるためのきっかけを作ることができた。生産技術の講師からは「人の並び順を変えることでもっと効率が上がるよ」やイラストレーターの講師からは「上手に描こうと思わなくても自分らしく描けばいいよ」などの助言を受けて、効率を上げる工夫をしたり、自分らしい作品にしたりする児童の姿も多く見られた。授業後の振り返りでは「また一つ将来やりたいことが増えた」「みんなで協力すると、一人ではできないすごいこともできることが分かった」「相手の意見も自分の意見もしっかり伝えられるコミュニケーション力を大事にしたい」などの感想が出された。

呼続小学校 協力することの大切さを実感できる呼続っ子



色をつけている様子

本校では、ペア学年を設定し、遠足などで一緒に活動する機会を設けている。その中では、上学年の児童が下学年の児童に気を配って接している様子が見られる。今年度は、さらに多くの学年と協力することの大切さを実感させることができるように、体育館の壁面に掲示する校歌額を全校で制作する。次のような手順で協力して制作した。①中学年がピースの基となる文字を書く。②低学年が書かれた文字を木製のピースに写し取り、色をつける。③高学年が写し取られたピースを彫刻刀で彫る。

この活動を通して、児童からは「私の書いた文字がどのように彫られるのか楽しみだな」「私の彫った文字が本当に飾られていて校歌を歌う楽しみができた」といった声が聞かれた。また、全校朝会では校歌額を見て元気よく校歌を歌う児童の姿が多く見られ、協力することの大切さを実感している様子だった。

廿軒家小学校 自分を見つめ、自分の良さを発見しよう

～異学年交流と共同造形遊びを通して～



1・6年で遊ぶ様子



アートフェスティバル

異学年交流では、1・6年、2・5年、3・4年でペア学年を組み、朝の時間に「にじっこタイム」を設け、自分たちで計画を立て、交流する活動を行った。また、運動会では、全校児童で「ジェンカじゃんけん」を行った。学年の枠を越えて交流することで、普段の休み時間の際にも、笑顔で関わる姿が見られた。

共同造形遊びでは、作品展から「アートフェスティバル」に行事内容を変更し、友達と保護者も交えて活動に取り組んだ。段ボールや新聞紙、大きな模造紙を使ったペイントなど様々な素材を生かし、みんなでつなげたり、組み合わせたりして創造することができた。どの活動も答えがないからこそ、話し合ったり、協力したりして、互いの良さに気付き、認め合う姿が見られた。

白沢小学校 「自分の命を守り抜く児童の育成」ー協働的に探究することを通してー



避難所運営について区役所の職員から学ぶ様子

5年生では、白沢小オリジナルの避難所運営ゲームを通して、異なる年齢、文化、価値観、身体的特徴をもつ人々が地域の避難所に集まることを学んだ。その活動を通して、災害時はそれらの人々との協力が必要であるということに気付き、災害時における適切な行動について考えることができた。実際に避難所を運営する区役所の職員から避難所運営における大切なことを聞き、その後、「避難所で少しでもストレスなく生活するために自分たちにできること」を課題として設定し、自分たちで避難所運営におけるプロジェクトを考えた。「段ボールベッドの作り方を教える」や「手当での仕方を教え合う」などのプロジェクト内容について協働的に探究した結果を、同じ学年の児童や区役所の人にプレゼンテーション形式で伝えた。避難した際に、自分たちにもできることを考え、自分たちの命を守り抜こうという意識が高まった。

本地丘小学校 やってみよう もっとやってみよう 本地ファミリー～絆を深める学び合い・ふれあい活動～



掲示されたメッセージ



学び合いの様子

本校は、全校児童 57 名の小規模校である。児童が成長し、社会で活躍していくためには、多くの人と関わり、他者理解はもちろん、自己理解を深めていくことが大切である。そこで、大きなホワイトボードを活用し、以下のような活動を行った。

- ① 「あいさつ運動」で高めた挨拶をしようという気持ちを継続的なものにするために、なかよし委員（挨拶当番）がホワイトボードにメッセージを記入し、それを掲示するという活動を行っている。各土間に掲示されたメッセージを見て、どんな挨拶をすると相手はうれしいのかなど考えるきっかけとなっている。
- ② 教科の学習を進める中で、出てきた考えや実験結果を共有し、児童が相違点を見つかけたり、追加で書き込んだりするなど、学びを深めるために大きなホワイトボードを活用している。

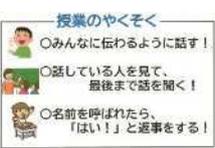
猪高小学校 猪高の当たり前っていいね！～いたかっ子のよさを生かした学校づくり～



子どもが作成した
キャラクター
「なかよん あかるん」

本校は、様々な活動においてやる気いっぱいに取り組むことができる。一方、「挨拶運動」や「給食のキャンペーン」などのイベントをするとその時は盛り上がるが、「継続的な活動につながらない」ことが課題であった。そこで、代表委員を中心に、「猪高の当たり前にしたいこと」を話し合い、「仲よく 明るく 助け合う いたかっ子」を目指すことにした。その取組の一つとして、全校児童に、そのシンボルとなるキャラクターを募集した。その後、投票を行い、「なかよん あかるん」が公式キャラクターとなった。キャラクターを、画像化して様々な場面で活用することで、子どもに馴染みのものとなるようにした。さらに、「明るい雰囲気をつくり出すために『挨拶運動をバージョンアップ』させよう」のように、「いたかっ子の当たり前」を具体化できるように励んでいる。

香流小学校 児童一人一人がウェルビーイングを感じられる学校づくり



授業の約束



交通安全教室

～ソーシャルスキルを育む取り組みを工夫して～

ソーシャルスキルについては、「みんなの約束ノート」（図書文化社）を参考にして、授業の約束を決めるとともに、「友達との話し合いの仕方」「感情の表現の仕方」「安全な登下校の方法」などに取り組んだ。また、NPO法人チャイルドラインあいちの方を講師に迎え、ワークショップと講演を低・中・高学年ごとに行った。これらを通して、児童はソーシャルスキルを意識した人とのかかわりができるようになってきた。児童会では、ウェルビーイングな学校として「挨拶や返事をしっかりできる」「平等・思いやり・やさしさがあり、安心して通える」「色々なことに挑戦して頑張る」の三つを掲げ、各種イベントを企画し取り組んだ。1月には児童同士だけでなく保護者や地域の方ともかかわるアートフェスティバルを企画している。

野並小学校 国際理解プロジェクト



二胡演奏会



二胡奏者との交流会

本校は、令和4年度より、名古屋市の友好交流都市の一つである中国南京市の小宮小学校とオンラインで交流会を行い、友好交流学校となっている。今年度は、南京市出身のプロの二胡奏者を講師に招いての演奏と交流会、そして中国領事館関係者を招いて中国文化の紹介と交流会を行った。講師からは、日本への音楽留学がきっかけで二胡奏者になったことや、大阪万博で日本と中国の関係が今後も続くようにとの思いを込めて作曲した曲を演奏したことを聞いた。さらに中国の伝統的な組紐を体験することで、外国文化や日本文化に対する興味を膨らませることができた。また、二胡 30 本を借りて設立した二胡クラブは、講師から直接指導を受ける貴重な経験を得ることができた。国際理解の活動を通して、児童は自分の国の文化のよさに触れ、これからの自分の生き方について考えることができた。

山根小学校 挨拶いっぱい 笑顔いっぱい ING



グループミーティング
ボードを活用する様子

テーマである「挨拶いっぱい 笑顔いっぱい ING」は、本校の学校教育目標である。この目標の具現化を目指して、以下の活動に取り組んだ。

- 友達と協力してクイズを解いたり、委員会が企画したゲームに取り組んだりする「やまねっこまつり」を行った。
- INGキャンペーンとして、児童会が中心となって、全校で自他の思いやりのある言動について「思いやりカード」に記述し掲示する活動を行った。
- 児童が、様々な活動を計画する際、グループミーティングボードを活用して話し合った。

これらの活動に取り組むことで、友達と互いのよさを認め合い、楽しそうに笑顔で学校生活を送ることができる児童が増えてきた。

菊井中学校 つづく つながる 私たちの絆



講演会の様子

東日本大震災後から陸前高田市との関わりをもってきた菊井中学校。そこで、現在、陸前高田市立高田小学校長の佐藤健先生に菊井中学校まで来ていただき、「東日本大震災に学ぶ」と題する講演会を行った。

東日本大震災が起きたという事実や表面的なことについては知っていた生徒たちも当時の映像や写真を見たり、佐藤先生ご自身が経験された話を聞いたりしたことで、大きく心は揺り動かされた。そして、災害が起きたときにどうすれば良いのかについて真剣に考えることができた。

この講演会は東日本大震災や陸前高田市とのつながりを風化させない貴重な機会となっただけでなく、災害について、正しい知識を得ることで、正しい判断をして自分たちの命を守る行動がとれるようにしたいという気持ちを育むことができた。

前津中学校 笑顔あふれるTEAM前津



全校で行った種目決め



Mフェス当日の様子

本校では、「笑顔あふれるTEAM前津～自ら考え、自ら学び、自ら行動～」を学校努力点に掲げ、みんなが楽しい学校づくりを目指している。

本年度は、丸の内中学校との合同体育祭Mフェスを行った。丸の内中学校の体育大会をベースに、終わった後に全員が笑顔になれるよう、各校で種目を企画したり、生徒会役員がオンライン会議をして種目を決めたりした。

当日も、スローガン「出合いが力に 団結が勝利に」にふさわしい時間を作り上げることができた。

これらの取組により、生徒の、他者を尊重したり、周りの仲間と協力しながら活動したりする態度を育むことができた。

白山中学校 笑顔で学び 笑顔で生きる ～ともに高めよう～



グループで学習
する様子



翻訳を見ながら
学習する様子

本校では、全校生徒が笑顔で主体的に活動できることを目標とし、仲間とのつながりを意識した学校生活に力を入れてきた。

今年度は、学校生活の様々な場面で自動翻訳ツールを活用することで、日本語理解が不十分な生徒も笑顔で活動できるようにした。授業では、教師からの「発問」に対して自らの考えを発表する姿、「指示」に従って活動する姿、「説明」を聞いてうなづく姿が見られた。学校行事の準備では、仲間とのつながりを感じたり、互いのよさに目を向けたりしながら、主体的に取り組む姿が見られた。また、保護者会や外部講師を招いた講演会でも活用し、理解を深めることができた。

自動翻訳ツールを活用したことで、言語や国籍に関係なく、ともに高め合いながら、笑顔で学び、生活する姿がより見られるようになった。

津賀田中学校 色でつなぐ、みんなの心 ～制約のある塗り絵アートに Challenge～



制作の様子



完成した作品

本校では「Challenge ～『自分で決める』を大切に～」を学校努力点に掲げ、自ら課題を見つけ、解決を目指して自律的に学習に取り組む生徒の育成を目指している。

今年度の芸術鑑賞会では、講師を招き、全校生徒が参加する形で大型の塗り絵アートの制作に挑戦した。「隣り合う色は必ず別の色にする」というルールのもとで、生徒たちはどの色をどこに配置するかを仲間とともに考えながら丁寧に塗り進めていった。また、「より美しく仕上げるにはどうしたらよいか」を話し合いながら色を決めていく姿も多く見られ、同じ作品をつくる仲間として自然に協力し合う雰囲気が生まれた。ルールがあるからこそ工夫が生まれ、色を通して心がつながる、仲間との絆が深まる時間となった。

日比野中学校 「楽しいひびの創造」の実現に向けて～仲間との絆を深めよう～



委員会でルールなどを話し合う様子



運営・審判・まとめるのも生徒が行う

本校は、「楽しいひびの創造」を最上位目標に掲げ、生徒が主体的に考え行動できるよう、委員会活動や学校行事の見直しを図っている。企画運営委員会では、「本校と南校舎の敷地に分かれていることで、日ごろの学校生活において1年生と2、3年生の交流する機会が少ない」という課題を解決するため、体育的行事の種目を生徒自ら考え、3学年が交流する場とする体育的行事「ひびスポ」の企画運営に取り組んでいる。今年度は、昨年度の生徒や保護者の声を受けて、学級・学年の枠を超えた、3学年合同の縦割りチームで活動することや、新たに「リレー種目」の追加、「大縄跳び」のルール変更など、見直しを図った。当日は、生徒自らが企画した種目を実現することで、学校全体が一つになることができた。この活動を通して、生徒自身が学校をよりよくし、学校の諸活動に主体的に参画しようとする学校づくりにつながった。

大江中学校 みんなに広げよう笑顔の「わ（話・和・輪）」



業者との話し合い



ペンキ塗りの様子

～文政の森再生プロジェクトを通して～

学校の余剰地（文政の森）を利用し、ハーブ園づくりを通して、様々な人（異学級・学年、地域の方など）との関わりを大切に、人間関係形成・社会形成能力の伸長を目指す取組を行った。これは、実行委員21人を中核とした活動の記録である。

1学期から2学期にかけて、花壇づくりや、花壇周りの建物のペンキ塗り、ハーブや野菜の育成を行った。また、活動について、掲示板やたよりを通して周知を行った。

収穫したハーブ（バジル）でパスタの試食会を行ったり、枝豆の塩ゆでを試食したりと、大いに盛り上がった。今まで話したことがなかった生徒や、造園業者さんたちとのつながりができ、「話・和・輪」が広がるとともに、笑顔がたくさん見られた。

3学期には、ハーブのお茶会を企画しており、地域の方々を招く予定である。

明豊中学校 「明豊五箇条の御誓文」～つながる力で咲かせよう笑顔の花～



「命の行事」

本校では「つながり」と「笑顔」をキーワードに、人権意識の向上を図ってきました。今年度は「明豊五箇条の御誓文」を意識し、生徒会が中心となって、全校生徒からデザインを募集してオリジナル下敷きを制作しました。完成した下敷きは掲示・配付され、全校生徒が共通の想いを日常的に感じられるようになりました。

また、「笑顔の花カード」記入活動では、生徒一人ひとりが「つながりを感じる言葉」「笑顔になる言葉」をカードに書き、校内に掲示することで、仲間の思いに触れる機会となりました。

これらの活動を通じて、子どもたちはつながりの意識を高め、学校で大切にしている想いを共通認識として広げることができました。いじめ防止への意識も高まり、笑顔あふれる温かい学校づくりに近づいています。

千鳥丘中学校 まだ見ぬ自分に思いを馳せよう！～これまでの生き方を振り返って～



生徒の質問に
答える講師

今年度は、これからの時代で必要とされる資質・能力について学ぶ機会として、久野商事株式会社取締役の方と名古屋銀行人材開発部の方から、世の中で求められている人材についてご講演いただいた。講演では、中学校・高校での経験で今に生きていることや後悔していること、起業にまつわるエピソード、様々な意見に対して傾聴することや最善の提案をする力などについてお話をいただいた。

生徒の振り返りから、「適応力の早い人が求められそうだから、柔軟な発想をもって物事に取り組んでみる」、「将来やりがいを感じる仕事に就くために、そもそも自分にとってのやりがいとは何か考える」など、今後に向けて、自分の考えを整理する様子が見られた。そして、社会との関わりの中での自分自身の在りたい姿を伝え合うことで、社会と自分との関係を肯定的に受け入れ、自尊感情を高めることができた。

猪子石中学校 共に育む！！～学校開放日に、保護者と一緒に俳句の選者になろう～



和室でのガチャ回し

本校は「和室」の活用が盛んで、生け花体験や水引づくり、百人一首大会などを昼休みの時間に実施している。このような本校の特徴を生かし、伝統文化である百人一首を題材に、クラスや学年はもちろんのこと、地域や保護者の方と共に学び絆を深めることをねらいとし、「俳句の選者になろう」というイベント活動を行った。

俳句の選者になるため、生徒は百首の中から7句程度を選定し、プラ板でキーホルダーを制作した。また、そのキーホルダーをガチャに入れて、ランダムで当たるようにした。クラスごとで選者としての違いを出すため、帯作りにそれぞれが工夫をし、どのクラスのカチャを引こうか迷ったり、出てきたキーホルダーを早速取り付けたりする姿が見られた。保護者も、帯を見ながら楽しそうにガチャを引いていた。生徒、保護者共に温かな関係が芽生え、共に学びを深めることができた。

久方中学校 「私」の問いのススメ ～人に興味をもとう！「楽しい」を見つけよう！～



せーの！



たしかに！なるほど！
驚きと共感の連続

本校は、「意志をもって行動しよう！」を合言葉に、「自分らしく生きる」力を身に付けられるように、発達段階に応じてキャリア教育の年間計画を立て、学習や行事に取り組んでいる。その一環として、「マイクエスチョン」というプログラムに取り組んだ。「【 】の意外な特技は？」「【 】がない世界ってどんな世界？」「お金より【 】が大切な瞬間って？」といった「問いの型」に、【時計】や【たんぼぼ】等の具体的な言葉や【間違い】や【笑い】等の抽象的な言葉を当てはめ、自分たちだけの「正解のない問い」を立て、自分なりの答え探しを楽しんだ。生徒からは、「みんなはどう考えるのか、もっと知りたい！」「自分のアイデアに対し、みんなから『なるほど』と言われて嬉しかった」といった声が聞かれた。他者の発想を楽しみ、自分のよさに気付くことで、自らの人生を舵取りしていく力を高めることができた。

菊里高等学校 創立130周年記念うちわの制作



130周年記念うちわ

本校では、自主自律の校風のもと、文化祭の企画・運営の大部分を生徒主体で行っている。

文化祭を運営する生徒からの「学校祭期(9月)の猛暑に向け、全校生徒で協力して来場者に熱中症対策グッズを配布する企画を進めたい」という提案を受け、「創立130周年記念うちわ」を制作した。うちわのデザインを校内で募集した結果、本校制服の変遷を描いた、130周年の記念となるうちわを制作することができた。

生徒は発案、予算確保、デザイン検討、文化祭当日の配布などを通じて、来校者へのおもてなしの精神や健康面への配慮等、イベントを運営する側が留意すべきことを学んだ。全校生徒が創立130周年であることを自覚し、学校全体の連帯感が強まって、生徒間の絆を深めることができた。

なごやの学校2025

令和8年3月

名古屋市教育委員会

名古屋市中区三の丸三丁目 1-1

TEL:052-972-3232【義務教育課】